日本書紀傳 三十 巻一

和書
一〇五二二號

百三

内閣文庫
番號 和 10522
冊數 156 (112)
函號 特85 1

国立公文書館
National Archives of Japan

教部省文庫印
内閣文庫
宮内省圖書寮
内一二六八三號

日本書紀傳三十之卷

寶劔出現章　穂積重亂　謹撰

神代上第二十八

自後國中所未成者大已貴神獨能巡造遂到出雲國乃興言曰夫葦原中國本自荒芒至及磐石草木咸能强暴

然吾已權伏莫不和順遂因
言今理此國唯吾一身而已
其可與吾共理天下者蓋有
之乎于時神光照海忽然有
浮來者曰如吾不在者汝何
能平此國乎由吾在故汝得
建其大造之績矣是時大己
貴神問曰然則汝是誰耶對
曰吾是汝之幸魂奇魂也大
己貴神曰唯然迺知汝是吾

之幸魂奇魂今欲何處住耶

對曰吾欲住於日本國之三

諸山故即營宮彼處使就而

居此大三輪之神也

少彦名神常世郷ハ渡ゝせ御在し坐る即の文ハ古事

記ハ於是大国主神愁而告吾獨何能得作此国就神

與吾能相作耶是時有光海依来之神中略此者坐御諸山

上神也と有て此ハ自後国中所未成者大己貴神獨能

巡造遂到出雲国興言曰夫葦原中国本自荒芒至及磐

石草木咸能强暴然吾已摧伏莫不和順遂因言中略于時

神光照海忽然有浮来者曰中略此大三輪之神也と有と

ハ大ハ皆けるが如き所ある也有けるを今何れを取り何

れを捨べきと文意を照し考るハ互ハ言の脱たりけ

る者ありけり古事記ハ於是大国主神愁而云ゝと有

ハ今迄御兄弟の御親睦御在し坐て御力を戮せ給ひ

御心を一ハ為させ御在し坐て相共とハ国巡り作堅

めさせ御在し坐ける火彦名命の御在し坐ず成ぬる
ふい爭で御心ふ愁させ御在し坐ざるむ又此時ふ
當りてハ就神と相共ふ並御在し坐て此国を相作る
せ御在し坐むと所思して然る御言葉の御在し坐け
るも亦自然ふ浮ばせ給ふ可き御心あめりし然る
ふ其御言ふ對へて謂ゆる幸魂奇魂神の顯れ出させ
御在し坐ける趣あるハ其ゞ脱文有る所あるみて其
後ハ事実ハ右ふ擧たる此の本文の如くあるべして
ハ事打合ずあむ有ければ右の古事記の於是より以
下相作此国耶より以上廿七字ハ此わも彼至常世郷

無自後国中云々有る矣と自との間ふ加ふ可く又
古事記ハ右の廿七字の下ふ此の自後国中所未成者
云々の詞を加へて又心得べき所ありける者ありき若
て地神本紀ふハ此所を大己貴命初典火彦名命二柱
神坐於葦原中国如水母浮漂之時為造成已訖火彦
名命渡常世後国中所未成者大己貴命獨能巡造矣略下
と有ハ其二柱神の国巡り為造成せ御在し坐て大ふ
成る事を云るふて殊ふ変し き傳説ありければ必
當昔然る古傳の有を採入て書せし者ふゞ有べう
りける但石の号成の詞ハ漢籍老子ふ功成名遂以身
退者天之道也と云ふ似たりと思ふるむ人も

有るめども其ハ傳廿九巻四百八十一丁ハ注せるが
如く万葉六巻ハ大汝小彦能神社者名著始雑目名耳
子名児山跡負而云こと有も二柱神の作成ー給へる
が故ハ其ハ山ハ名有りと云事ハて九て古ハ土地の
事を名々云りけれバ右ハ号成と云も其堅め坐ー国
土の成れる由ありり此を以て老子の意と似せ非ず
る事をあむ曉る可うめける此号成
の語ハ殊ハ此ハ眼目て有る所あり 偖此ハ自後国中
所未成者大己貴神獨能巡造と有る獨ハ其少彦名命
と二柱神相並び御在ー坐けるハ其神ハーも常世郷
ハ至らせ御在ー坐て此ハハ御在ー坐ず成ぬるを以
て獨とハ云ふの然れども御伴神等ハ此ハも数多御
在ー坐けむ御事ハ古事記ハ其少彦名神の御事ハ且
是問所従之諸神皆白不知と有を以て其所属の諸神

の多在ー御事も知られ此大己貴神の御事ハも多迹
且久又久延毘古ハどの供奉れるを以て国内ハ在ぬ
る諸神の従奉る事を知べきあり中ハも大倭神社注
進状ハ傳聞倭大国魂神者大己貴神之荒魂與和魂戮
力一心経営天下之地建得大造之績と有る如きも其
少彦名神の御在ー坐ず成ぬるハ就て更ハ新ハ其荒
魂和魂神の始て御力を戮せ御心を一ハ為て輔相奉
らせ給ふハハ有べうず其ハ今ハ始れるハハ非ず
本よりの御事ハー有けれバ此ハハ必しも獨能巡造
と云べき語の勢あめける者あり已ハ古事記ハも於

是大国主神愁而告吾吾獨何能得作此国孰神與吾能相
作此国耶と有る吾獨ハ右の荒魂和魂神等ハ更なり
右神ハ須勢理毘賣命此ハ謂ゆる三女神の御事ハ
渡らせ給ひて殊ハ可畏く御勢と亦隆ハ御在し坐て
後の御政を聞食し御在し坐けるをも亦御子神等の
御事をも合せて吾獨とハ宣給へるハて次ハ謂ゆる
孰神も如彦名神の如く其御部の外他よりの御力を一
ハ為させ給へるむ神の御上を言出させ給へる者ハ
内此事を能辨へざる時ハ次ある事魂奇魂神をしも
太三輪の大物主神の御事ハ思誤る事ハて其結文
ハ此大三輪之神也と書されたる如きも已く此傳を
誤られし者ある事下ハ云ハ如く有れハ況てや後世

の議者ハ於てハ其誤を然して後の御興言ハ天葦原
傳ふ可き者ありし
中国本自荒芒至受盤石草木咸能強暴然吾已撥伏莫
不和順と有ハ古事記ハ十神段御父大神の御所より
生大刀生弓矢を賜ハり御嬬妻を携へて歸り御在し
坐たる所ハ故持其ハ大刀弓追避其ハ十神之時毎坂御
尾追伏毎河瀬追撥而始作国也と有を始として大倭
神社註進狀ハ傳聞ハ千戈神者大己貴命以廣矛為杖
為撥平豊葦原中国之邪鬼是時大己貴命号曰八千戈
神と見え大伴神社記ハも大己貴命以廣矛天八重雲
裳押分巨天地乎翔行巨天下裳睨巡給巨東国之五日

蠅声如須邪神手神拂尓拂平賜而と有るが是あり若
て其廣矛ハ一も傳サカ廿九六十を注るが如く伊弉諾大
神の黄泉神を御杖以て神逐ハせ給ひ御事を傳へ
給ひて即岐神の神宝とも持齎ケせ給へる御杖を
あむ有ければ其神の御稜威さへを加ハらせ御在
坐て然る荒振る国神共を悉く言向け平げさせ給へ
るを以て右件ハ其八十神を追撃ひ給へり始より国
避の御時を至る迄の始終を亘る御事を為ん渡らせ
給へりける次を因言今理此国唯吾一身而已其可與
吾共理天下者蓋有之乎と有る一件を於てハ昔より

此神の誘言の如く申成り奉る事あれども此神の御
為を甚信あひ難き事あり其ハ右を引る古事記の上
文を御父大神より此神を授任り給へる御言を其汝
所持之生大刀生弓矢以而汝庶兄弟者追伏坂之御尾
亦追撃河之瀬而意礼為大国主神亦為宇都志国玉神
而其我之女須世理毘賣為嫡妻而於宇迦能山之山本
於底津石根宮柱布刀斯理於高天原氷椽多迦斯理而
居是奴也と詔給ひ其大国主神と御在り坐す御職を
事依り授させ給へる御事あれバ此ハ其大国主神と
坐て其大国主神の御功業を成させ御在り坐ける御

事を述させ給へるあれば少しも誇りあるの御心は
御在し坐ずて実に當然の御言とてこそ思成し奉る
るに御事には有けれ然には有れども唯大凡の事の心
言の如く思ふ事にて斯云ふ子も此傳に及ぶ迄は少
う疑あり〳〵其意味は有しを今右の如く古事記と合
せ見る事を得て始て数年の惑を一時に解に至れり
きう〳〵偖右に引る古事記には素戔嗚尊六世孫即大
国主神の説あるを已に傳廿四卷に委しく注せるが
如く此正書には直に素戔嗚尊の御児と有に従ひて
説を成せるあり見む次に干時神光照海有浮来者は
人不審うる事勿れ
其大国主神をして大国主神たらしめ給へり神の
別に御在し坐す由を示して今迄隠身あり〳〵守ら
せ御在し坐けるを此に始て顕身を顕はして依来坐

るありけり〳〵地神本紀には遂到出雲国五十狹二之
小汀而興言曰略干時神光照海忽以踊出没浪末為素
裝束持天蹇槍有浮来者曰略と有は甚と愛たし其は
隠身の唯御霊のみに御在し坐て御言詰はせ給ふ
御事も何も出来させ給ふよりありければ此に於て
顕身と成て御問對は為させ給へるにて此幸魂奇魂
神と聞ゆるにや決く皇産霊神の御事に渡らせ給へ
りけり偖此結末は此大三輪之神也と書されたるは
即神名式に謂ゆる大和国城上郡大神大物主神社名神
大月次相嘗新嘗と有る此御事に思寄られたる者あるらし

此幸魂奇魂の御事をも其大己貴神の和魂大物主
神の寄来坐る者とて其基しきを至りてハ謂ゆる
離魂病などゝ引付て說を成すゝ至れるゝ甚と淺ハ
りある定說ゝ有む有ける己ゝ傳サ九ナハゝ変〳〵く
注せるが如く大倭神社注進狀ゝ倭大国魂神者大己
貴神之荒魂共和魂幾ヵ一心經營天下之地建得大造
之績と見えて其荒魂神和魂神共ゝ己くより別れさ
せ御在ー坐て大己貴神と共ゝ国巡ゝ造堅させ御在
ー坐ければ今始て御形を現ハー出御在ー坐む事ハ
如何ある事共あるゝ上ゝ此大物主神ゝ大三輪ゝ鎮

より御在ー坐ける御事ハ出雲神賀詞ゝ乃大穴持命
乃申給久皇御孫命乃靜坐牟大倭国申天己命和魂乎
八咫鏡尓取託天倭大物主櫛甕玉命登名乎稱天大御
和乃神奈備尓坐云と天皇孫命能近守神登貢置天ハ
百丹杵築宮尓靜坐支と有て此国造の御時よりハ遥
ふ後ゝー て国遊の御事の以前ゝー有ければ此ゝ大
己貴神の御室を建て齋祀〳〵せ給へる幸魂奇魂神を
ーも其和魂大物主神ゝ御事と為てハ事実ゝ違へる
事共あるを其大三輪之神也と書されたるも同じ大
三輪の神山ゝ御在ー坐す神とゝ義ゝて傳へたる古

說あらめども其を承て此神之子卽甘茂君等大三輪
君等云ての語ゐ續けられたるゐ就て大なる誤ハ出
来れるありけれバ此御撰有し程ハ已く事違ひた
る事もてろ有けゝ記傳十二 二十ゐ三十ゐ今大國主神の
己命獨して此国を得作竟じと憂給ふハ書紀ゐ理此国唯吾
一身而已と云て誘給ふも同じく唯荒魂のみ進て和魂の乏しうゐ
し為り故今神産巣日神の御量ゐて萬事を令成るハ皆此神の御靈ゐ
別ゐ其和魂の御形を現して如此示教給ふゐり若
て此教の隨ゐ齋祠給ふゐ因て和魂滿足し栄坐て其
御身を守幸へ給ひ奇靈しき德を以て遂ゐ天下を作

竟しめ給ふ故ゐ此を幸魂奇魂とハ云ありけりと云
れたる仇ての趣ハ然る事あらゝ猶和魂の御事を為
られたるゝ其意を得られざりける者ありロ訣ゐ幸魂奇魂者
一魂兩化之名幸魂者念而先臨而就奇魂者不念而成
是卽天命一身之主也と云ふ唯理を立て云る者
ゐして古意ゐ非ず纂疏ゐ幸魂奇魂者魂魄之名子
産曰人生始化曰魄既生魄陽曰魂用物精多則魂魄强
是以有精爽至於神明幸魂則陽魂主氣與生以可慶幸
故曰幸奇魂則陰魄主形與死以可奇異故曰奇と有る
子産曰ゐり至於神明まで左傳の語ゐる ゐ其疏ゐ
魂魄神靈之名附形之靈為魄附氣之神為魂也と有を
通證ゐ已ゐ引れたり名義抄ゐ魂を衰陀麻志此魄を
賣陀麻志此と有ハ陽魂陰魄の義ゐれども幸魂奇魂
の事ゐ合ハず又字鏡集ゐ魄を佐伎多麻と有れバ古
くも魂魄ゐ当たる説も有けるゐや但右の御説の如
くハ魂字をてろ然訓べうりけれ何れゐしても古人
も其定ゐれる見解ハ無りしゐありけり其より後ゐ説

ハ右の二家の篠嗤と餘屋大人の和魂の徳用の説ハ本著て彼離魂病あゞを附會せたり一者ハて云ハも足ず然れバ此下ハ此大三輪之神也と有ハ其大三輪の地ハ御在し坐す神の謂ハて謂ゆる大三輪神三座の内ハてハ御在し坐ざる可うめり其ハ此ハ吾欲任於日本国之三諸山故即営宮彼處使就而居と有る文ハ當りて古事記ハい吾者伊都岐奉于倭之青垣東山上此者坐御諸山上神也と傳りて東山上とハ神名式ハ(摂上郡)神坐日向神社(大月次新嘗)と有る此御社の御事を大和志ハ(の一説)在三輪山頂今称高宮と見えたる実ハ能當れゆ又右ハも引る如く大物主神社ハ大神と書され猶

同郡狭井坐大神荒魂神社五座(鍬添上郡)率川坐大神御子神社三座と有ゆゞ大物主神の御族ハハ何れも大神と書さるゝ此式の例ゆるハ右の日向神社ハハ唯ハ神坐(ミワニマス)と書別たれたりけるを宇陀郡神御子美牟須比命神社と有て此ハい右の率川神ゆゞゆ如く大神御子とハ書されず神御子と有ゆゝハ彼神坐日向神の御族ゆる可きハ美牟須比命と申す御名ハ天地を造化(ナシマシ)せ給ふ神の御上ハのゝ稱奉りて国神の御名ハ良ハしゝゆゝざるを以思ハハ右の日向神社ハ大己貴神の此時ハ幸魂奇魂神の御為ハ神離を建て

齋祠り奉らせ給へる地なる故に御諸山（ミモロヤマ）と此に
因て出来れる者なりけり若て其大物主神（大三輪神三座の中に）はしと上
に云るが如く国避の御時に當りて其国作の御時の
守護神と為て持齋らせ御在しに坐ける幸魂奇魂神の
御許に御霊を鎮させ御在しに坐て神器（アマツヒツギ）の昌運（ミサカエ）を助奉
らせ給ふ御為に宮處を大神（オホミワ）に定させ給ひ大己貴神
はしも彼東山上に御在しに坐す幸魂奇魂神を持齋き
初させ給へる始より彼神の屬奉らせ給ひて此に御
霊を留めさせ御在しに坐す御事と為むと見えさせ給へ
りける其御事は傳サ九巻二十四丁に已に注り偖右
に謂ゆる大三輪神三座と申すは鎮座次第に

奥津磐座大物主命中津磐座大己貴命辺津磐座少彦
名命と有る是れて右の神坐日向神社とは別なり偖
其日向神社は内蔵寮式に日向王子と有り然るに其
本社を祖神と一枚社を子神と申せる中古の例なれ
ば別に抱はる可きなれども然して大和志の本説に今号
三輪若宮と云るは狭井社に近き所にして東山上と
在るに叶はざれば其山上に遠きが為に容易く到る
可らざるを以て遥宮を此に設られたるなどに
そは有けめ　右の如く推以て行くに其神坐日向神社と申
奉る謂ゆる幸魂奇魂神と申奉るは決く高皇産霊尊
神皇産霊尊の御事にあむ渡らせ給ふ可らざりける此
の對文には顕宗天皇三年御紀に月神著人謂之曰我
祖高皇産霊尊有預造天地之功宜以民地奉我月神
依請献我當福慶中略奉以哥荒樔田と有は其部内なれ

ハ神名式ハ山城国乙訓郡羽束師坐高御産日神社大月次新嘗と有る是なり次ハ日神著久謂阿閑臣事代日以磐余田獻我祖高皇産霊尊略と有る此ハ有預鏘造天地之功の御言を被載されども同じ事の重復れる時ハ略りて御紀の例なれば此ハも月神の如き御言の御在り坐けむ御事推て知べし即神名式ハ大和国十市郡目原坐高御魂神社二座並大月次新嘗と有る是ハて今一座ハ神御魂神ハ御在り坐べき事先輩已ハ其説有が如し偖右の預鏘造の字をしも釋秘訓ハ曾比氐阿比伊多世流と有ハハ決めて幽深き謂有る御事と

ハ又継体天皇廿一年御紀考徳天皇元年御紀ハどハ預を久波と理氐と訓るハ加列の義なり又

ハくして即此書ハ由吾在故汝得建其大造之績矣と有る績と亦此ハ同

あむ所見たりける然して右の預ハ綏靖天皇前紀ハ預者の二字を阿曾布毛能又阿比伊布比登と訓るハ相副者又相言人の義なり皇極天皇三年御紀ハ預を麻自理氐と訓るハ即交際の義なり然る時ハ預の言ハしも他ハ相交り加ハり給ふ意なるなりけり次ハ鏘造を阿比伊多世流の阿比ハ相共共ハ相なり伊多世流ハ往足の義なり即此ハ使至と云ハ近下其預鏘造の活機ハ次ハ云べし又預字を皇極天皇元年御紀ハ預造を加祢氐都久流と訓るハ字書ハ預豫通と云意なり名義抄ハ預を豫の俗字として阿豆加流又麻自流又麻自波流と訓ミ又加祢氐と訓も兼の義有れば副の義ハ離れざる可し偖其預鏘造の字ハしも漢籍世史類篇述異記などハ

△古事記畫虎戸宮殿ハ大吉備津彦命與若建吉備津日子命二柱相副而西之道ニ言向和吉備国ヲ平ケ有て相副ハ傳ヘ九巻百五十丁ハ云る戮力心を有て同ドきを此ハも思合すべき者ハ

彼元始天王太元聖母ハ万物之祖と有る字ハ陶ハ和名抄ハ須恵器都波毛乃と見え鎔ハ伊加太と有て即鑄模ハ入て物を作る義ある其字を用ゐれたるハ然して右の三字を記傳ハ引れたるハ阿比都久良斯志と訓れたるハ推ハ過て古意ハ〻ず然して右の預鎔造の事を物ハ試るハ天地の初発の時ハ此二柱神の産霊ハ資て狀貌難言と云一物を天中ハ生出させ御在して坐けるハ又其産霊ハ因て清軽ハ上りて天と成り重濁ハ下りて地と成るハ各神有て天ハ可美葦牙彦舅尊天常立尊地ハ国常立尊豐斟渟尊の相造〻て給へるを皇産霊神ハ〻と其上より預鎔造て其事を成て給ひ又国土の始も其産霊ハ因て伊弉諾尊伊弉

冊尊を生坐て国を(生)〻神を令生給へる此即皇産霊神の預鎔造て給へるハり又其産霊ハ因て御子の中ハ珍御子天照太神素戔嗚尊(即月神)を令生給ひて天下之主者と為させ給ふ可〻所思て なるハ天照太神ハ已く天上ハ上〻せ給ひて高天原を所知食て素戔嗚尊ハ後ハ地下ハ下〻せ給ひて終ハ月国ハ入給へる即皇産霊神の預鎔造て給へるハり若て日神月神ハ御誓約ハ天忍穂耳尊を生奉〻せ給ひて初二柱御祖神の初ハ何不生天下之主者歟と詔給へり御言の験此ハ於て成就へり即皇産霊神の預鎔造て給へる

あり右ハ日神ノ有預鎔造天地之功ト詔給ヘルハ
件の意を宣ひ示給へる者あわけり偖此ハ大己貴命
次彦名命戮力一心経営天下ト有ハ本より皇産霊神
の御命ハ因給ひて已ハ其功を奏し給へるハ其預鎔
造し給へるを以あり若て少彦名命ハ常世郷ハ
渡坐る大己貴命ハ此国を巡造らせる共ハ皇産霊神
の預鎔造し給ふ事猶二柱相並び御在し坐ける最初
の如くあり故此ハ大己貴神の乃興言曰（中略）今理此国
唯吾一身而已其可與吾共理天下者蓋有之乎ト御言
発させ給へるハ對へて如吾不在者汝何能平此国（耶）

△彼山幸彦海幸彦の幸の義ハて皇祖天神の顯命し給へる德ハて其德を合成給ふ御魂ト申奉る

田吾在故汝得建大造之績矣ト詔給ヘルハ別ハ預鎔
造して其大造の績を令建給へる御事（皇産霊神の御在し坐す）を手給へる者
ある事右ハ如吾不在者云ふ由吾在云ふと有を以て
其然る所以を知べく又己命の和魂の謂ハ非る事
を曉る可し偖其幸魂奇魂ト申奉るハ皇産霊神の亦
御名ハも非ず其預鎔造し給ふ作用ハ就て称奉れる
御事ハて此ハ右等の神等の御上のミハ限らず吾
も人も共ハ世ハ活ミし生る限ハ其御守を得奉る御
事ハて其幸魂奇魂ト申奉るハ幸魂ハ私記ハ是左支
久阿良之无留魂也ト有る即全幸魂の義あり此を以

（ある事ハ下四百十ハ字ばかり此幸△）（ハ因て）

其奇異なる妙用を成し得る即て奇魂め今幸奇魂ある事をも亦知へきあり然る時て
神ゐも人ゐも身を全く在せて事業を合成る者ハ幸
魂の預(鎔造)相致し給ふが故あり又其事業を成行ひ大ゐ
力むる時ハ自だゐ得測り知られざる驗の見ゆる者
あり是奇魂の預鎔造し給へるを以あり此を以て見
る時ハ皇産霊神の御霊ゐて御在し坐す御事愈著明
きを彼地神本紀ゐ見えたる其幸奇魂奇魂神の御裝束
ゐ持天瓊槍と有る此ハ天神の御物ゐて已ゐ二柱御
祖神ゐ授けさせ給ふ御事有き大己貴神の和魂神ゐ
ゐ出ゐハ何其御本体の大己貴神だゐ未知給ハざる

天瓊槍をしも何時ゐ人間ゐ天上ゐ升ゐて天神ゐり
賜ハり持せると為む此を以ても和魂と幸魂奇魂と
ハ混同ゐ為すべきを然れば此ゐ此大三輪之神也と
有ハ神坐日向神社の御神ゐて大神大物主神社とハ
異あれば唯大三輪山の内ゐ御在し坐す神の義ゐ
見る可うりける然して其神坐日向神社ハ其大神大
物主神を守給ふ神ゐ御在し坐して
其守給ふ神と被守る神との差有る御事ありと知べ
し然れば漢籍ゐ謂ゆる魂魄ゐどくハ本より別あるる
幸ゐて神の御国ゐるくぬ人の得知まじき事ありけれ
ハ此ハ全く漢意を離れて説べき事ありけり又和魂
ゐ附會するも非ある事ハ云も更あるを昔すり詳ゐ
うさりし事と見えて御紀ゐも右の此大三輪之神也
此神之子云こと続けるれ殊ゐ地神本紀ゐハ幸魂奇
魂術魂之神也と云る術魂ハ何の事ゐ甚幼げゐ聞内

△私記ハ百礼共利乃知と有り此ハ

△此登理志呂と訓へり万葉三四頁

獨為而見知師無美文語典妹来之敏馬能埼乎過左尓獨而見者土佐国

土為而結之紐乎一為而吾者解不見古今集ハ獨りて物を思へば云々あり

る事共ハてあむ有ける○自後公ヤ彦名命の常世郷ハ渡り御在し坐ける後を云ふ此所古事記ハ於是大国主神愁而告吾獨何能得作此国熟神典吾能相作此国耶の文有り必此ハ置べき語ある事此巻首ハ已ハ注るが如し

今記傳十二ナ七ハ注されたるを又ハ撮て云べし愁而ハ御力を戮せ御心を一ハ為て国巡り造り御在し坐ける次彦名命の御在し坐ず成ぬるを愁歎うせ給へるあり獨公今迄二柱神御兄弟と為て御在し坐けるを此ハて唯一柱ハのみ御在し坐てあり能得作ハ延都久良年と訓べし凡て得と云辞の用格漢文を讀

ハハ譬へバ得作ハ都久流許登袁延受と訓む皇国語ハハ不得作ハ延都久良受と云ひ其餘も不と云時ハ凡て延云と勢受と云例ハり然れバ是ハ准へて凡て得作と云べし万葉十三ハ左小舟乃得行而將泊十一二十ハ面忘太尓毛得為也登十二三十四ハ旅宿得為也長此夜乎と詠り此ニの得為也ハ上ある為る事を得るやあり下ある為る事を得むやハ延須ハ延勢奴の反対あり今世の俗語ハも興宇須流興宇勢奴と対へて云ふ其興宇勢奴をバ延勢奴とも云へバ興宇須流ハ延須流あり

孰神典吾ハ孰神登共尓吾波と訓へ耶字訓べう〜

撮要補意

ず

と有り偖此御言ハーも其次彦名命ハ〜ぬ孰

神とうい共に此国を得作〜せ御在〜坐むとおて
他に其御力を戮せ給へ〜む神を求めさせ給ふに
非ず其去坐〜し大彦名命の御事を甚〜可惜〜し給へ
る御言ある者ありけり故此に死別れて事に異ふれ
ども光仁天皇宝亀二年御紀藤原長手大臣の薨給へ
る時の大御命に大臣明日者参出来仕年止待比賜間尓
休息麻利豆参出来須事波無之帝天皇朝子置而罷退止聞者
而云〜信尓之有者仕奉之太政官之政宇波誰仕之加母罷伊
麻須孰授加母四能伊麻須恨加母悲加母我語比佐氣年孰尓加母
我問比佐氣年悔弥惜弥痛弥酸弥大御泣哭之坐止詔

云〜自今日者大臣之奏之政者不聞者夜成年自明日
者大臣之仕奉儀者不者行夜成年云〜朕大臣春秋麗
色波子誰倶加母見行寿賜年山川浄所者孰倶加母見行阿加
良閇賜年歎賜比憂賜比大坐坐詔云〜と有と其御歎
の御意味似させ給へる御事ありて甚斯許り慈偶ひ慕
給ふ御心に御在〜坐が故に其御心を一に為させ給
ふ御契の違はせ御在〜坐ずして傳廿九四百八十四丁に注
せるが如く少彦名命に〜も常世郷に渡り御在〜坐
つるも猶本大御国の御為に外国〜を巡造〜せ給ひ
又大已貴命も国避の後に常世郷に追渡り御在〜坐

て漸西方に移り御在坐て終に大地を巡造り御在
坐て皇国の東方より二柱神共に歸り御在坐ける
る此を以て右に孰神與吾相作此国耶と有る御言に
も其次高名命なるぬ神を指て宣へるに非る事を
曉る可くなる有ける右の古事記の文に此も必無
て事の足はざる所ある故に今引出て注せるを互
に考合す可き者なり〇但其記に此御言を聞て
る趣なるに文の脱たるに直に幸魂奇魂神の依来坐
なるずりすて叶はざる者なり記傳に此御紀の如く
如く然而云くく有を書紀に自後国中所未成者大
已貴神獨能巡造云くく其可與吾共理天下者蓋有之字
と有に傳の異なりしに也と云れつれとも異なる
非ず此の中に右に引る古事記の文れを脱て古事記

に御紀の此所の〇国中は久迩能宇知と訓べし天
文を脱せる者なり〇
孫降隔章に国内諸神云く神武天皇戊午年御紀に瞻
望域中時云く崇神天皇御紀七年に国内静謐十一年
に国内安寧仁德天皇四年御紀に烟氣不起於域中と
有を此を古事記に於国中烟不発と作れたる孝德
天皇大化元年御紀に部内天武天皇四年御紀に
所部を然訓せたり偖此中字を那加とは訓ずして字
知と訓せたるは神武天皇戊午年御紀の中洲を私記
に宇知津久尓と書て崇神天皇十年御紀の畿内も右
と共讀同じきに其に對へて景行天皇五十一年御紀

△中国を黙読す

び

の邦畿之外を登都久迩と訓り然れば国の中外を宇知登と云事知べし万葉五六丁の阿乎尓奈延斯久奴知許等其等十七三十九丁の古思能奈可久奴知許登其等と有の據て久奴知と訓べき狀の有れども其の歌詞の上のこゝろ有けれ文の中は猶久迩能宇知と必読べき者あり備傳サ九百十丁の注せるが如く此上文の大己貴命典少彦名命戮力一心経営天下と有り地神本紀の大己貴命初與少彦名命二柱神坐於葦原中国如水母浮漂之時為造成と有が如くして此大八洲国の全体の於ては二柱神の成造せ御在し坐ける

を今茲のてハ其大八洲国の中のて其未成ざる所を有を堅作らせ給ふ御事あれば必右の文其の合せ見る可き所ある者あるべし又久迩能那加と訓も備事の非るハ八洲起元章の国中之柱を私記の久尓奈加乃美波志良と有り又葦原中国と云も葦を殖巡るの中の在る国の謂あり万葉三巻サ七丁の奈麻余美乃甲斐乃国打縁流駿河能国典已知其智乃国之三中従と有て中心の義を含たれバ宇知と云よりハ狭き如し

○所未成ハ上文の嘗大己貴命謂少彦名命曰吾等所造之国豈謂善成之乎少彦名命對曰或有所成或有所不成と有る其を承て云あり此の就て幽深の致有る事己の傳サ九四百六十四丁の委しく注るが如し若て此ハ既有所成の對のて所未成とハ

其不成合處の謂あり古事記国生段に於是問其妹伊
邪那美命曰汝身者如何成答曰吾身者成成不成合處一
處在尓伊邪那岐命詔我身者成成餘處一處在故以此
吾身成餘處刺塞汝身不成合處而以為生成国土奈何
何伊邪那美命答曰然善と所見たる男神に成餘處女
神に不成合處の出来れるに此神世七代章に謂ゆる
天先成而地後定あるが其成餘れると不成合とを合
せて国土を生成し給へるに即皇祖天神の道にして
又此に合ふ所有る者あり然して此に己に有所成に
右に謂ゆる成餘れるに物の成合ひ具足へるを云

て源氏松風十九に見えむ方無き盛の御形あり甚う
聳やぎ給へりしど少し成合ふ程に成給ひにける御
姿あど若てこそ物こそりけれと寄生二十七に人の
御程少やうに平安あどは非で宜き程に成合たる
心ち為給へるを如何あらむ物こそ鮮やぎて心操
も嫋やうある方は無く物誘ひうに有むあど
有る是あり所未成と云は成合ざる謂にて東屋十六に
に親無しと聞侮りて未幼あく成合ぬ人を指超て
若は云成る可しや又五十六に未成合ぬ佛の御餐あど見
給へ置て今日宜しき日ありければ急ぎ物し侍りて

浮舟ナヤ下ハ宜しく成合ぬ所を見付たらむにてだに
然許り床しと思し標なる人を其と見て然止ぬ可き
心ゑ〳〵ぬべ」あぐ皆物の未片生ゑるを云ゑり但右の
成合ふ成合ずハ人事の上ゑ〳〵天地の上ゑ云も同
ど事ゑりければ此の所未成し其ゑ就て義を求む可
し若しも其成合ふ所の餘を以て成合ざる所の不足
を量成し給へる即皇祖天神の道ゑて幸魂奇魂の顔
鎔造し給ふ神助の正ゑ此ゑ在る事ゑれば輕忽ゑ看
過す可ゑ非ず然れば先ゑ造遺させ給へる所とのを
正音を貫らずや成ゑり傳サ九巻ゑ已ゑ注せる或有
所成或有不成の旨ゑ合せて深く遠く思ふ可く ゑ出

（二柱御祖神の国生坐しと正ゑ同しく〳〵して）

ム能巡造ハ上ゑ天
大已貴命共ゑ彦
名命数カ心経
営天下と有る也
名命の御在し笑ず
成て大已貴命の
こ其御大業を
成し給へる謂ゑ
るゑ此

有ける○獨穴右ゑ引る古事記ゑ吾獨何能得作此国と
有る獨ゑて也彦名命と相並ばして国作り御在し坐
けるを今ハ御在し坐ず成ゑけるが故ゑ唯獨して物
為させ御在し坐す（御事を申せる）田ゑり然して此下ゑる今理此国
唯吾一身而已と有る御言ゑ應ふる（所ゑる事云と更）者ゑり但此ハ孤
獨の謂ゑハ非ず今迄少彦名命と二柱して掌り御在
し坐けるを也彦名命の其部下の神等を率て御在し
坐べうりければ此ゑハ大已貴神の部下のこゑ成給
へる趣ゑり已ゑ其嫡后須勢理毘賣命ハ御父大神よ
り大国主神と為べき御事依を蒙り御在し坐けるよ

り天の日日有が如く地の山川有る如く並御在し坐
て後方の御政を摂ね聞えさせし御事ハ申すも更な
り傳サ九巻の條しの注せるが如く大国主神と申奉
るハ各国の国主神と云有を其主宰ゆて渡〳〵せ給へ
る由あり国作大己貴命と申すハ諸國の国造神の君
長ゆて御在し坐す趣なり又大倭神社注進状の倭大
国魂神者大己貴神之荒魂典和魂幾力一心経営天下
之地建得大造之績と有て其荒魂神和魂神等も共の
始より分形して左右の侍給へる由あり其大国魂神
と申すハ謂ゆる大地官と有る在ゆる大地の国魂神

を治し御在し坐す謂あり又其大物主神と申すハ天
孫降臨章第二一書の是時帰順之首渠者大物主神及
事代主神乃合八十萬神於天高市命以昇天下と有て
有ゆる国神の首渠者と御在し坐る趣なり又上文の
其子九有一百八十一神と見えたるハ傳サ九百三十一丁
の引る神祇譜の九此神生子一百八十一神以爾五柱
而天下四方国人夫等令蒙恩頼此之縁也と有が如
く御子等も餘多の御在し坐て供奉給ひ猶古事記の
ハ多迹且久又久延毘古等の神も供奉れる事所見た
り又天孫降臨章なる此大己貴神の御言の如吾防禦

者国内諸神必當同禦今我奉避誰復敢有不順者と有を以て天下ハ在ゆる諸神ハ一と悉ク順ろひ仕奉ふれ趣あれハ其御勢の盛大ハ御在し坐ける御事を明らめ奉る可きさるあり猶其上ハ幸魂奇魂神の顔鎧造し御在し坐けれハ唯獨のミ物為させ御在し坐と虽も如何ある事をそう成し得させ給ハざるム少彦名命の御上ハても然り此下文ハ其依り御在し坐ける所ハ是時海上忽有人聲と有り古事記ハも所従之諸神と所見たりけれハ大己貴神ハ先立て己く常世郷ハ渡り御在し坐て其国を作堅めさせ給ふ許の供奉神を従へ御在し坐けるハて其御勢将大己貴神ハ劣坐さゞし状あり彼我カ云ハ即此所ハ在る事を思ふ可き者ある○能ハ古事記ハ吾猶何能得作此国と有る

能ハして此ハ上文ハ吾等所造之国豈謂善成之字と有ハ對應たる所ありけれハ次ある巡造ハ合せて善造成の善と見べき事云も更あり備右ハ国中所未成と有ハ国体の未善あるざるを云ひ此ハ能巡造ハ国体を已ハ善成し給へる義ある事傳サ九四百六十三丁豈謂善成之字の下ハ注せるを以知べし（其事を善する事傳其六十三丁）凡て物の成就ふ事ハ典久と云ハ善（コヽヽ）則善文善言あゞ是あり若て出（傳其六十三丁）雲風土記ハ島根郡方結郷郡家正東二十里八十歩須佐能烏命御子国忍別命詔吾敷坐地者国形宜者故云方結と有る宜（ヨシ）ハ国形を堅固く作縫ハせ給へる事を

云事其地名を方結と号させ給へるを以知べし是亦
此の能巡造の義を想ふに足れる文ありしれて其事を善
する事に善射又は善文又は善書又は善哥又は善詩
などゝ云ふ善は其事に漂よりしき所無くして全く成
就へるを云て其も亦此に同じ○巡造は都久理米具理給比彼と訓
べし巡は神武天皇御紀戊午年に親率軽兵巡幸烏(メツリーデミス)三
十一年に皇輿巡幸景行天皇十八年御紀に巡狩筑紫(メツリミナス)
国仲哀天皇二年御紀に天皇巡狩南国(なり)と有り万葉
二十(ニヤ)丁に久尓米具留阿等利加麻氣利由伎米具利
可比利久麻豆尓已波比豆麻多祢と所見たり備此
の巡造は已に傳サ六(ニ百六)十四丁にも引き出雲風土記に

秋鹿郡恵曇郡郡家東北九里卅歩須佐能乎命御子磐
坂日子命國巡行坐時至坐此處而詔此處者国稚矣好
有国形如畫鞆哉吾之宮者是處造事者故云恵伊(神亀三年)
改字恵曇又多大郷郡家正北五百一(里ヤ)百廿歩須佐能乎命御
子衝杵等乎而留此古命国巡行坐時至坐此處而詔吾
御心照明正眞成吾者此處静所坐詔而静坐故云多太
又和泉風土記に大鳥郡古老傳云昔素戔嗚尊御子衝
杵等乎而留此古命巡行此国詔吾御体衰坐詔而静坐
故云於登利今謂大鳥者訛也と有なり見えたる国巡
行は唯に巡り歩行せ給へるのみ非ずして国巡造

給ひし御事と聞えたり其ハ出雲風土記ハ揖縫郡玖潭郷郡家正西五里二百歩所造天下大神命天御飯田之御舍將造給處爲巡行給尓時波夜佐爾久多美乃山山詔給之故云忍美神亀三年改字玖潭と有ハ天御飯田の御舍を建給ふ地を爲巡行御在し坐て此も国造の御事ハ就たるを以ても知るべしあり猶信濃風土記ハ治天下御神大己貴命又少彦名命建御名方命巡行此国と見え日向風土記ハ那河郡古老傳曰大穴持命巡行此国至此所詔国之中故云中郡と有るハ皆其国造の御事ハ就て巡行坐るあり右等ハ尚書あるハ謂ハ巡狩とハ別ある者ハ

常陸風土記ハ首祖神尊巡行諸神之處云々有ハ巡狩ハ似たる状あり正巡狩ハ當る

り其ハ右ハ引る景行天皇御紀仲哀天皇御紀ある巡狩者巡所守也と有ハ孟子ハ巡狩の御事をハ国見と云り一巻ハ孟子ハ巡狩ハ似たる状あり正巡狩ハ當る

ず能當れりける其ハ子ハ是あり万葉ハ其巡狩の御事をハ国見と云り一巻七十ハ天乃香具山騰立国見ヲ為者又十九丁ハ高殿ヲ為者三巻三十八丁ハ神代紀高知座而上立見国見ヲ為者三巻三十八丁ハ神代紀従人之言嗣國見為筑紫乃山巻十巻二十二丁ハ雨間開而国見モ將為ヲ巻二十八丁ハ遠人待之下道湯登之而国見所遊十九巻三十九丁ハ伊許瑳都追国者之勢志氏安母里麻之御ヲ平あるハ天皇の巡狩ハ巡察使あるハ巡察ハ巡察ハ通ハ云り然れハ此の巡造ハ大小異ハ有る者と知る可し故此大己貴神の国巡り御在し坐て其所未成を善造成し給へる御事ハ出雲風土記ハ意宇郡母理郷所造天下大神大穴持命越ハ国平賜而還坐時来坐長江山而詔我造坐而令国者皇御孫命平世所知依奉但八雲立出雲国者我静坐国青垣山廻賜而

玉珍置賜而守詔故云文理（神亀二年改字母理）と有る此は皇御
孫尊か国土を避奉給ひし程の御事なるゝ此御言の
趣を以て見奉る時は天下を悉く善造成し託させ給
へる御事申すも更なり然しても少彦名命と二柱神し
て天下を経営し世御在し坐ける御事跡は已に傳せ
る百五十三丁に委しく注し奉るゝ如し若しても此神一柱に
ての御事跡は同巻四十七丁葦原醜男神又五十八千戈神五丁
の下に注し奉り其又十七丁和魂大物主神又六十二丁荒魂
大国魂神の下に在ゆる故事を挙て注し奉れるを猶
大己貴神一柱の御事跡として見ゆる御事跡を拾奉り

試るに右に已に引る風土記に島根郡午涤郷郡家正
東一十里二百六十四歩所造天下大神命詔此国者丁
寧所造国在詔而故丁寧負給而今人猶誤謂午涤郷之
耳即在正倉と有り記傳三十八二十七丁に遠飛鳥宮段歌
に佐ニ婆尓宇都夜阿良礼能多志陀志尓葦泥豆年能
知波略と有る多志陀志尓の下に右の風土記を引て
云く上すりの続きに小竹の葉に霰の降る音にて其
を慥と云係たる歌朝倉宮段大御歌に多斯美陀
氣多斯尓波葦泥受とも見え猶万葉十二四丁に慥使宇
無跡又右の丁寧を多志と訓べし然らざれば午涤

と云ふ由無し」と云れ又出雲神賀詞倭文能大御心も多親尓と有る後鞆ふ彼布の筋の鮮うふ慥ふ分れ通りたる如くふ天皇の大御心慥やうふ坐ませとあり」と云れたるふて此丁寧の義明らかあり此午深ハし（実ふ岩根疑しき）も内海の方ふ指出て鮮ふ慥ふ見ゆる地（ふて鮮うふ慥なる如き）あるが故ふ丁寧所造国とハ詔給へるあり神名式ふ當郡長見神社所見たり此神（ふ御在一坐）あるふり其ハ風土記抄ふ午深御長見村拆田大明神と申す云り此ふ就て考るふ拆田とハ山を割て田あどふ作成させ給へるうとも思ゆれバあり備右の慥字ハ中庸ふ慥ハ尓と有て注ふ篤実皃と云ひ史記ふい愉字を訓と慥敵切字をも読ふ事あるが辛苦を多志那牟と云ひ慥聚ある可き皇太神宮儀式帳ふ志摩国慥柴と云地名の有も多

志賀良あり是慥字の多志り言ふ當れる證あり又右ふ載たる掬維郡玖潭郷ふ天御飯田の御事有り国造の御業ハしも専田地を定給ふ御政を本と為させ給へる御事あり又仁多郡所以号仁多者所造天下大神大穴持命詔此国者非大非小川上者木穂剌加布川下者阿志婆這度之是者尓多志枳小国在詔故云尓多と見えたる此国者非大非小と云ハ廣うふず狭うふずして人民を令住るふ處を得させ給へる趣あり川上者木穂剌加布ハ川上ハ山深くして樹梢を剌交す迄ふ欝茂りたる由あり川下者阿志婆這度之ハ川下ハ地平うふして大紫（柴ヒ）這度

る許ゐ地肥たりとあり尓多志枳小国とハ尓多（志枳）ハ稙
縫郡温田郷郡家正西八里六十歩宇乃治比古命以二尓
多水而御乾飯尓多尓食坐詔而尓多負給之（下略）と有る
尓多ゐ同くして傳六（六十七丁）ゐ注せる意哉研哉美哉ゐ
どの言の如く麗しく和やらゐ咲ハしく饒やゐある
狀（もやゐて）ゐり今も俗ゐ快く笑ふを仁多ことと云る是ゐり
然して（此傳廿六十七丁ニゐ注せる阿須波神波比岐神の御事ゐ引合ひて）右の木穂ハ薪木と成す謂ゆる灰木の料ゐり
阿志婆ハ大柴ゐして此ハ薪（焚ノ料）草の料ゐるゐて此ゐ已
ゐ國を作らせ御在し坐て民を令住給ひ農業の方を
聞きて火食（カミキ）の法を示（弘）させ給へる御事ところハ所見

たりけれ故其ハ仁多ハ即郡家の地ゐる可し同郡三處
郷即屬郡家大宅持命詔此地田好故吾御地田詔故云
三處と有ハこれゐ尓多志枳小国在と詔給ひて此御田
をも好て詔給ひて已命の御地と為させ御在し坐け
る趣ゐり故此ゐ大已貴神の行宮を造給ひて住せ給
ひけむと思ゆる所由ハ座摩神詞ゐ生井栄井津長井
阿須波婆比支登御名者白（白氏絲）薛竟奉者皇神能敷坐下
都磐根尓宮柱太知立ゑゝと有が如く流水醴泉堀井
の具ハりて大柴厌木の事定（足）る地を以て宮處と為さ
せ給へる上古の故実ゐ甚能く合ひ又右ゐ御地田と

有も其宮處の垣津田の謂とも聞ゆるを思合す可し
又布勢郷郡家正西一十里古老傳云大神命之宿坐處
故云布世神亀三年改字布勢と有る布世ハ田廬の事ゐて大神
の假初ゐ宿ゆ御在し坐ける御座ある可し万葉五三十
丁ゐ布勢伊保能麻宣伊保乃内尓直土尓藁解敷而八
四十五丁ゐ然不有五百代小田乎苅乱田廬尓居者十六十五
丁ゐ可流羽須波田廬乃乞等尓云こと有て下ゐ田廬
者多夫世也と有る是ゐ大神の国造ゆ巡り御
在し坐けむ御間ゐハ甚如此樣こゝの御事ゐむ御在し
坐へき(べき)たゆけ〳〵し右の川上者木穂刺加布川下者阿志婆這度之の事を彼阿須波波比

岐二神の事ゐ合せて柴薪の事ゐりと云をバ如何か
ゞや思ふ人も有ゐめども唯文の任ゐて其地ゆ形
容をのこと愛させ給へるのこゐしてハ国作の御旨ゐ
合ずゐむ有けれバ此を以て說を成せるゐり但我が
上古ゐハ本より大食の事窓ゐり程ハ已ゐ伊弉冊
尊の食泉之竈の御事ゐても著きを傳サハ卷十
丁ゐ云るが如く素戔嗚尊ゐ菓樹を植させ給へるハ
猶菓実をも食ひしゐりけり其御孫ゐ奥津日子神大
戸比賣神坐ハ竈神ゐり阿須波神波比岐神ハ柴薪を
用ひて竈を焚く神ゐる然る神等の生出させ給へる
ハ其事を世ゐ常給ふゐ非ずして何ゞや偖右の川下
者阿志婆這度之と有を後信本ゐハ阿志波布と四字
ゐ作れゆ古史徵ゐハ河志婆と出たり阿を河ゐ作れ
るハ私ゐれども實ゐ婆ゐ波布ゐてハ聞えざれバ然
る善本の有けゆ偖大己貴命の諸国を巡ゐ御在し坐て
国作ゆ給ひし御事跡ゐ就て此ハ其彥名命と並御在
し坐て造〳〵せ給ひ其ハ大己貴命一柱ゐて造〳〵せ給

へるあど今より差定めて如何ハ云べ〳〵も然りと
て今知べ〳〵ずとて止む時ハ筆を閣くすり外なむ
無りけれバ神名式風土記等ハ載れる諸国の神社を
此ハ擧て神代の條を見てむとす此中ハ實ハ神代
の神迹なるも有べきなり神名式ハ山城国愛宕郡賀
茂別雷神社亦名若雷名神大月次相嘗新嘗と有る謂ゆる上社ハ御
事なり賀茂御祖神社亦名神大月次相嘗新嘗と有る即下社の御
事なり元暦奏上記ハ自神代所鎮上社事代主命下社
大巳貴命而已略と有て上社の事代主命亦名大山咋
神と申して即別雷神ハ御在し坐し下社ハ大巳貴

（本名味鉏高彦根神）

命佐神玉依姫命亦名宗像姫神ハて御在し坐す由傳
十二九十七丁又百七丁十五三百五十三丁下ハ已ハ注せるが如し又神
名式ハ山城国葛野郡松尾神社二座並名神大月次相嘗新嘗此御
社ハハ大山咋神胸形中都大神二柱ハして大巳貴神
ハ其七社の中なる謂ゆる摩谷神社是なる事傳ず六
百五十二丁百八十一丁ハ注せるが如くして賀茂下上社と其所
祭相等しく御在し坐すが此大神等相共ハ山城丹波
近江等の国〻を造給へる御事なむ所見たりける其
百五十六丁ハ注せる丹波国桑田郡鍬山社縁起ハ原夫云
古天地開闢而神功既畢霊運方遷矣自後亦出雲洲大

已貴神巡行始到此洲為此洲也鴻水懷山渺浪排空故
神領八神南方到黒柄嶽視水脉地勢逆流西下矣今水戸峠
是也東方見山狹可通水而鑿山劈磐頓流決之神始取
鍬成此洲里給依之崇奉号鍬山大神と有八神名式ハ謂ゆる鍬
山神社の傳説あるゞ此領給ひし八神ハ后神御子神
等の御事と聞内又丹波湖水考ハ請田神社傳記曰遂
古世丹波国湖也大山咋神決其湖水涸而後為家郷及
田地於是尊崇此神德祠之以称栗田浮田明神以鋤為
神体と見え又山城名勝志ハ以鋤為神体社坐丹波国
保津邑浮田明神或云此説是と有る此浮田明神ハ神名式

ハ謂ゆる松尾神社是なり若て神代系圖傳ハ大山咋
神決丹波国湖水涸而成土矣以鋤為神体者山城国松
尾大神也と見え羅山文集吉田了以碑銘ハ又有浮田明神祠
世傳遂古之世丹波国皆湖也其水赤故曰丹波大山咋
神穿浮田決其湖於是丹波水枯成土乃建祠而祭之以
鋤為神之主此神即是松尾大神也と有る此等を以見
れば栗田郡松尾神社の神鋤を右の山城国の松尾
神社ハ移奉りて大山咋神の神体と崇奉れる由なり
但石の系圖傳一本ハ丹波国浮田明神者大山咋神
也遂古世丹波国皆湖也其水赤故云丹波大山咋神鋤
耳湖水涸成国矣是以用其鋤為彼神之霊体此神者
即松尾大神同体也と有り備羅山文集共ハ其水赤故

曰丹波と云ハ字ハ就て設たる説ハ一て信ひ難き事共なり其丹波と云国名ハ一も丹後国丹波郡丹波郷より起れる事已ハ鈴屋大人の国号考ハ云れたるが如し予が説ハ多ハ多大の義ホ波ハ平坦なる意なる由なる事傳十五巻百三十九丁ハ注せりき故右の鍬山社縁起ハ依る時ハ大己貴神ハ其御取給へる御鍬を以て神体と崇奉りて此ハて鍬山大神と称奉る由なり又大山咋神ハ神鋤を以て神体と為させ給へる御事此神の御本名を味鉏高彦根神と申奉るハ符合へり偖丹波国の湖水を落して大井川を通し給へる此ハ依て山城河内摂津の水理を能為させ給ふ可きなれば右の国々の始て地形の善成りけむ事申すも更なるを思ふ可し然

して鋤鍬をしも知る止事無き物ハ持斎き奉るハハ深き所以有る御事なり其ハ傳サ三 二百八十七丁 サ八 百二十一丁ハ注るが如く出雲風土記国引文ハ童女智鉏所取而大奥之支太衝別而波多須こ支穂振別而と云事四處出て即素戔嗚大神已ハ此を用ひて邦を建させ給ひ又意宇郡條ハ出雲神戸郡家南西二里廿歩伊弉奈枳乃麻奈子坐熊野加武呂乃命五百津鉏神鉏所取て而所造天下大穴持命二所大神等依奉故云神戸他郡等神戸且同之と有ハ熊野神宮と大己貴神の御料の神戸を充させ給へるハて是国作の御業を此大己貴神ハ事依

〻高彦根神の御事を注せる所を考合す可し

授進ゝせ給へるあり又傳サハ（百五十八下）を引る本朝
事始ハ鉏須幾有天八鉏有神田斎鍬大己貴命典女彦名
命同心合力製之専為民用と見え鍬（久和）有大和鍬有神
田斎鍬但奉授穂使斎鉏斎鍬者是同前と有て已くニ
柱神の国作の御時ハ作始め置せさせ給へる御物ハ
り然して大山咋神の御本名味鉏高彦根神と申せる
も御父大神ハ供奉りて国作り御事を専と力めさせ
給へり御功ハ依ゝせ給へる御名ハ御在り坐せバ
実ハ松尾大神の御体と為て此時の神鋤を斎祀れる
あゆ所以有る御事ハふハ有ける（下百八十播磨国新次神社ハ所又三百七十七味鉏）備神名式ハ丹波国桑

田郡出雲神社（名神大）一宮記ハ大己貴命妻三穂津姫也
と有を社説ハハ中素戔嗚尊左大己貴命右稲田姫命
と傳ゝる事名実共ハ合へり續後紀ハ承和十二年秋
七月丙午朔辛酉丹波国桑田郡無位出雲神奉（授）従五位
下依国司等解状也三代実録ハ貞観十四年十一月廿
九日授丹波国従四位下出雲神従四位上元慶四年六
月廿一日授丹波国従四位上出雲神正四位下紀略ハ
延喜十年八月廿三日授丹波国出雲大神正四位上と
所見て更止事無きハ実ハ素戔嗚大神ハ御在り坐ハ
る可し同郡小川月神社（名神大）三代実録ハ貞観元年正

月廿七日甲申奉授丹波国従五位下小川月神従五位
上と有も其大神の亦名を以て斎祠せ給へる為り
又伊達神社ハ大己貴神の御兄五十猛神ハ御在し坐
す事傳廿七（ナナ）（イ）ハ己ハ云り又大井神社ハ松尾同体
ある事傳十五（三百九十丁）ハ注るが如く多吉神社ハ出雲
風土記ハ神門郡多伎郷郡家南西廿里所造天下大神
之御子阿陀加夜努志多伎吉比賣命坐之故云多吉（神亀
三年改字多岐）と有ハ思合す可く又三縣神社ハ地神本紀ハ
都味歯八重事代主神児天日方奇日方命御在し坐て
即姫踊鞴五十鈴姫命の御兄ハ坐るあど悉くハ所由

有る御事共ハあるべ有ける彼大己貴神の領給へり
ある可くべむ事ハ其阿陀加夜努志多伎吉比賣命ハ
即下照姫命ハ坐て此天孫降臨章ハ雅国玉神と所
見たる此を以て其国作の御事ハ切坐しける知べ
し其外ハも式内の神しの中ハ必其所従の神等も
有べくべむを傳無れバ今此を知べ
社と申も有ハ必此大己貴神大山咋神二神ハ又葉田神
ある可き事右の鍬山神社の御事ハ此へて知べれ
き者あり又此御事共を次ハ云ふ山城国の方ハも係
て互ハ見合す可くあむ偖傳廿二（ナナ）七丁ハ載たる丹波国葉田郡の
土俗相傳て云へく浮田明神の鋤を以て山を鑿ち磐
を穿給へる其片方ハ嵐山松尾ハて其片端ハ亀尾山
是あり其通し給へり水ハ即大堰川あり浮田明神
の御在し坐す保津ハ其水の落口ハて丹波ハて比（を保）

津川と云い亀山の接地あり鍬山明神は亀山の東南十七八町矢田村に御在し坐て即亀山の産土神なり」と云り山城名迹志に松尾山一名別雷山と云ひ松尾神社を在別雷山下と云ひ又山城志に賀茂山一名分土山又神山と有る是松尾賀茂両處に同名の地有て右の国作の由緒等しき證是なり又右の亀尾山は其形に就たる称にして本名亀山なり右の賀茂に神山の称有に思合す可く岩山は荒鋤山の謂なる可きなり其由緒の久縁なくさるを思ふに件の賀茂下上両社の鎮座はしも正に此御時の神代に在る事を暁

る可し偖和名抄郷名に山城国愛宕郡賀茂有り又出雲以都毛と在上下出雲下出雲の二郷あむ甚床しき者なりける其に傳廿三三百二十八丁に注せるが如く神名式に同郡出雲井於神社大月次相嘗新嘗と有も右に云る丹波国の出雲神社名神大に同じくして所祭素戔嗚尊に渡らせ給へるに此国作の御時なりこそ其御霊を前祠奉らせ給ひけめ又同郡出雲高野神社今高野村東の上下に御在し坐るも出雲国名を以負せ給へるも由縁有て皆共に国作の神代思めしき御事なりけり又傳十五二百七十八丁廿三四十八丁に已に注る古に山代

（下六百九十三下ハ注ス如ク相楽郡岡田鴨神社大月次新嘗岡田国神社大月次新嘗ト有ル此二社ハ就テ賀茂茶仁の地名ニも四所以有ベキ有リ）

国と云ふハ宇治川より以南の地ハ宇治久世綴喜相楽の四郡を總云称あるを出雲風土記ハ意宇郡山代郷郡家西北三里一百二十歩所造天下大神大穴持御子山代日子命坐故云山代也即有正倉と有て出雲国ハ山代郷有ハ猶山城国ハ出雲郷有が如し然れば此山代国を造給ひし御功ハ因て負坐る神名ハ神の御名を負る地名なるなりけり

又綴喜郡樺井月神社大月次新嘗同郡月読神社大月次新嘗相楽郡綺原坐健伊那大比賣神社神名式ハ所見たるハ即大己貴神の御父母ハ比渡ゝせ給へるなり又綴喜郡朱智神社有ハ丹波国船井郡酒治志神社和名抄ハ須知郷有り又訓郡走田神社丹波国桑田郡走田神社有て共ハ同トく又石ハ注る如く葛野郡松尾神社二座並名神大月次相嘗新嘗と有る其本社ハ桑田郡松尾神社ハ〜て謂ゆる浮田神社是なり又同郡出雲神社名神大と有て其隣りる愛宕郡ハ上出雲下出雲の二郷有る事ハ〜も出雲より先丹波ハ御在〜坐て其より山城国ハ及ぶ給へる神跡ある事著明〜なる玄

又傳ハ六百五十ハ注せるが如く神名式ハ近江国滋賀郡日吉神社名神大正史ハハ大比叡神小比叡神と有て其大比叡神ハ大己貴神ハ渡ゝせ給ひて大宮の御神なり小比叡神ハ事代主神ハ御在〜坐て古事記ハ謂ゆる大山咋神亦名山末之大主神此神者坐近淡海国之日枝山亦坐葛野之松尾用鳴鏑神者也と有る是ハて即二宮の御神なり其余の五社ハ後ハ祭加へられ

たれば神代に係て申す可き非るあり諸神鎮座記
に日枝神社在近江国滋賀郡坂本村日枝神社者大国
主大神也大巳貴大神別名也自神代兒大山咋大神化遷此處以
此山為六合本柱至豊浦宮天皇時大神辞之返父大神
替栖以葛野為鎮祠山城国松尾神祠是也と有て神代
に御父子二柱神彼丹波山城の国々を作堅めさせ御
在し坐ける御時に此山を以て国中の本柱と鎮給ひ
て其近傍ある諸国を巡造しせ御在し坐て此れ主
と大山咋神其地主と為て御在し坐けるが故に山末
之大主神と称奉れるを推古天皇御世に至りて御父

大巳貴神を主神と御在し坐させ奉給ひて大山咋神
はしも松尾に替栖せ給ふと云ふ御父大神を大宮に
巳命ハ二宮に御在し坐す御事の始を傳云ふ有べ
き但其ハ後に御鎮座の次第を申奉るにてろい有け
れ神代より六合本柱と為させ給へるハ此山を其中
心と為て其余の諸国に御事迹の及ばせ給へるを知
へき便宜ありける者ありし若て日吉神道秘密記
に別に山末社と云有て次に廣田社東向西方立之山
末神前に天申之字掌内書之祈念事云と本社建立之
初祭礼之始當社與利起也と有に其別社ある可し此

△殊に此神等の所以深き所なる事を前にあて下三行に以下は再注すを考互して知べきあり

に就て思合せらるゝハ二十二社注式摂津国廣田神社條に住吉廣田八幡南宮八祖神と有る下に松尾大山咋神南宮嚴島明神宗像明神と書して其地に此神等の御在し坐も此国作の御時の由緒など御在し坐なる可き事下四十五丁に注る事共を合せ考へ奇し又神名式に伊勢国度會郡山末神社即止由氣宮儀式帳に載れる菅社の中に山末社と有る是なり神名秘抄に山末御玉命一名大山咋命又山末大主神是也と有も此時の神代すりの御事跡有に非し伊勢風土記に員弱郡就賀師神社欽明天皇二年始祭此神大己貴命也

又有に斎明天皇五年御紀に是歳命出雲国造闕名修嚴神之宮と見えて釈に杵築神宮也嚴者嚴重之義也と注せるが如くなれば此就賀師の号の少縁なるを見ても其祭祀に後の事なるべし思に神代に回らず可き事なれども記に或古記云平安京者百王不易之平安と云事有る賀茂大神宮を嚴神と申す御事に茂大神宮猛霊者松尾霊社是也依二神之鎮護朝方代御祖神社に大己貴命玉依姫命の御在し坐に就て申奉る御事なれば右の嚴神之宮の謂是なり且右に就賀師神社山末神社等の御事のミに限らず且傳聞如六巻二百四十二丁に九巻百三丁に已に注せらるゝ如く此伊勢の国内に大国玉神の御事跡多く御在し坐す御事に申すも更なり猶神名式に多気郡宍師神社坐に謂ゆる兵主神の御事なれば八千戈神是なり飯高郡大神と社に大物主神なれて渡らせ給ひ鈴鹿郡

△又椿大神社小片
大神社

大井神社二座ハ已ニ云る丹波国桑田郡ニ坐と等し
く松尾同侍ありハ朝開郡大神神社石部神社二座員辨
郡賀毛神社ありど皆若て神名式ニ近江国滋賀郡神田
所田有る事共ありり
神社御在ー坐を或書ニ在堅田亦曰伊豆大社神田大
明神伊豆大明神と云り（此伊豆大社と申す田ハ下ニ注たれ云べー）又式ニ丹波国多紀郡神田神
社和名抄ニ神田郷有ニ神名同じきを其滋賀苗鹿神
社坐り其ハ傳廿六ハ十ニ引る社傳ニ宇賀御玉神と
有も田有げるニ已ニ上三十三ニ引る本朝事始ニ鉏
須鍬有天八鉏有神田斎鍬大已貴命典少彦名命同心合
力制製之事為民用と有る神田の言ニ便を得て考ふる
ニ清和天皇貞観三年実録ニ眞神田朝臣全雄賜姓大神朝臣大

△大同年聚方川巻ニ加元多藥出雲国と成之家方と有る神田も必其大神ニ関れる事ありて可
（傳記ニ近江国氣多大明神家傳ニ大已貴神三輪龍神事也と有ハ何れ有るも猶考可き事ありり又和名抄ニ
可き事ありり又和名抄ニ當麻郡大国郷有ニ當麻郡石部神社二座御在ニ坐す事故有べー）

△冠注記ニ湯次神社
圭田廿九束二字田御名賀多也安康天皇六年甲午十二月始年と見えニ江神社記ニ大井郷ニ江神社二座一束三字田垂代主命也敏達天皇三年始行神礼と有り

三輪大田田根子命之後也と有る眞ハ例の言上ニ置
る強辞ニて神田ありり御紀ニ眞上田と有ハ饒速日命
の御裔の眞神田と混れざるニ令む為ありれば此氏の本
を推す時ハ大已貴神の国造の御功ニ係て右ニ神田
神社の号ハ御在ー坐るありけり又大上郡阿自岐神
社二座和名抄ニ安食郷有て（是）即味耜高彦根神ニ（御在ー坐）て
即大山咋神の御事ニ渡ーせ給へれば今一座ハ（御祖神）大已
貴神（ありる）可ー大同奏聚方ニ大上藥近江国山田里氏
間寺之所傳原者素戔嗚尊所授方也と有ハ斯る所由
ニ依て傳ハれる者と所見なり淺井郡岡本神社（湯次神社ト）（同）

△又大標神社里田神社並坐る八十七社
二百九十五丁ゆ座すが如く
播磨風土記多奇郡里の文に依ゆ里田神社は宗形大神奥津島比賣命ゆ坐し大標神社は謂ゆる大倉比賣神ゆ坐し
即ち照姫命の御事あり

記ゆ所祭（素）戔嗚尊也雄略天皇三年己亥六月始加神礼と見え又式ゆ片山神社二座と有ハ山城国愛宕郡鴨岡本神社片山御子神社（大月次相嘗新嘗）と有ゆ合ひ又伊香郡高野神社ハ其愛宕郡ゆ出雲高野神社有り△又高島郡熊野神社大川神社（有ハ）丹後国加佐郡大川神社（名神大）熊野郡熊野神社（共同じ）又宇佐多神社ハ上（三十二丁）ゆ云るが如く丹波国桑田郡ゆ浮田社有て即神名式ゆ謂ゆる松尾神社是あり（猪栗太郡蘆神社見えて丹波国氷上郡蘆井神社有り但蘆井を保葦と訓るハ蘆井を誤れるかと又野洲郡兵主神社名神大ハ八千戈神ゆ御在し坐す由傳ハ九巻八十七丁ゆ已ゆ注し蒲生郡大島神社奥津島神社浅井郡都久夫須麻神社ハ三女神ゆて渡らせ給へる事傳十五巻

マ又野洲郡馬路石部神社蒲生郡石部神社
▲ゆ自是ゆれば大己貴神
△相原郷有り知名抄ゆ見ゆ下ゆ七丁但馬国養父郡相原神社の御事ゆ思合す可し
△又加賀郡神田神社ハ下ゆ八十丁ゆ云るが如し

ゆ係らゆ注るゆ如マ（愛智郡）石部神社二座ハ姓氏録ゆ據ゆ天日方奇日方命ゆ坐ゆ大ゆ神代の由縁著明き者あり（備右ゆ云る（「ユヱ不詳」養父郡有り蒲生郡）與神田ゆ饒速日命の御紛御在し坐ハ姓氏録ゆ左京神別上天神ゆ眞神田曽祢連神饒速日命六世孫伊香我色乎命男気津別命之後也又大和国神別天神ゆ眞神田首伊香我色乎命之後也と有て神名式ゆ加賀国加賀郡神田神社見えたるを風土記ゆ神田神社圭田云へ舒明天皇二年庚寅八月所祭饒速日命也有神家巫戸等と有れば同じ神田神社ゆ其心得有べき（同じ）ゆ此国造の御時ゆ宇迦之御魂神ゆ（大己貴神）ゆ為給へりと思しき由次ゆ飛彈国ゆ考合す可き所有る東海道の国々ハ傳ゆ九百十丁ゆ注るゆ如く其ゆ始大己貴命ゆ彦名命ニ狂神但馬国より三河国へ移らせ給へる古傳の慥ゆ傳ハれらバ今云限ゆ非ず神名式ゆ美濃国多藝郡多伎神社大神神社御井神社

□思はるゝ百座根本正一位三宮護法大菩薩と称す三宮三社也と云ふ此三大神と思しきを一千四十ゝ注る出雲国神門郡多伎藝神社の例ゝ據る時ゝ大己貴命淤津姫命下照姫命の三神なり

△和名抄郷名ゝ大野郡大神席田郡美和磯部各務郡三井賀茂郡美和神田等有也思合すべし此御事下二百十ゝ委しく注す又多藝郡久と美雄神社ゝ事代主神ゝ坐べき説有と下七百三十一丁ゝ

安八郡加毛神社各務郡飛鳥田神社御井神社賀茂郡神田神社あゞ坐を惣云ふゝ神田神社ゝ大己貴神ゝ坐し大神神社ゝ大物主神ゝ坐し多伎神社ゝ丹波国（東郡）多吉神社と同じくゝ下照姫命ゝ御在し坐べくゝ加毛神社ゝ味耜高彦根神飛鳥田神社ゝ永万記ゝ阿須賀社と有れゝ大和の飛鳥ゝ同じくゝ事代主神ゝ渡らせ給ひ御井神ゝ彼八上比賣命ゝ令生給へりし水俣神（謂ゆる稲羽神の御事ゝと）ゝ御在し坐せゝ皆供奉られし神等ありけり文傳サ六百三十二丁ゝ注せるゝ如くゝ神名式ゝ飛彈国大野郡水無神社一宮記ゝ御歳神也と有り偖大同類聚方ゝ飛

太藥大野郡水無神社御歳祝之所傳云て大己貴命所授也と所見たり右の近江国ゝ苗鹿神社神田神社相並御在し坐ゝ等しくくゝ大己貴神の此巡国ゝ御歳神を相伴ゝ御在し坐て此時ゝ稼穡の方をも諸国ゝ弘めさせ給へるありけり三代実録ゝ貞観十七年十二月五日授飛彈国正六位二木毋国津神従五位下と有を以ても其大己貴神の此国ゝ御在し坐す御事ゝ著きを和名抄郷名ゝ三枝佐以久佐阿拜阿波の二郷有ゝ神名式ゝ大和国添上郡率川坐大神御子神社三座又率川阿波神社と有る此ゝ因れるを其率川社ゝ

△荒城郡大津神社ハ下照姫命ヲ坐す事下ニ云る同ク摂津両国の例を考合す可し

狭井神 大己貴命荒魂大國魂命も御在し坐て倭大国魂神亦曰大地主神と大倭神社注進状ニ書せるゴ如くなれば殊ニ大地主神と御歳神とハ親しく御在し坐す所縁有ルも符合へり△又三代実録ニ當國ニ氣多若宮神賀茂若宮神と云も所見なり其氣多ハ神名式ニ能登国羽咋郡氐多神社名神大一宮記ニ大己貴命と有り賀茂ハ右ニ謂ゆる山城国の賀茂社を申せるなれば事代主命ニ御在し坐し其若宮と申すハ各其本宮ニ對へて別社と云義ニ有べし△又頭注ニ水無神社を大己貴命女高照光姫命女高降姫命大和国葛上郡御歳神社同之と有ハ下照姫命なれども此主神ハ御歳神ニ

△下七十丁出羽国の條ニて考合す可し

△古ニ此国ハ大なる湖にて在しを何れの時ニか山を穿ちて信濃川を越後ニ通しとゝ平土と成ル事立傳なるハ豈人力の能致す所なるべきや若くハ彼丹波の大井川の例共ニて此時の御事と申さむも強事ニハ非る可くや

御在し坐せバ若くハ其相殿なるゾ御在し坐しむを然云る者なる可し△何ニか下照姫命も雄国玉神と御名ニ負せる許の神ニ御在し坐せバ此ニ祀られ給ふ可くなり△又傳ハ九百七十九ニ三丁ニ信濃風土記を引て大己貴命次彦名命の国作の御事ハ已ニ注し申せりき偖神名式ニ水内群美和神社頭注ニ三輪大明神也と云ひ伊豆毛神社を素戔嗚尊也と書し妻科神社を稲田姫命也と有り又小縣郡生島足島神社名神大ハ傳ハ九百七十六丁ニ注るゴ如く大国魂神ニ御在し坐て古語拾遺ニ謂ゆる大八洲之霊ニ御在し坐し又和名抄郷名ニ大宍於保と有も大己貴神ニ御跡なゾニ依てこそハ名ニ負ひ〻し△又佐久郡大伴

神社ニ申奉るハ御牧望月大伴社記一云注ハ掛巻毛進状
畏支信濃国佐久郡横鳥郷望月之里御桐谷尓鎮坐須
大伴神社者月夜見尊也大己貴命也二柱伊邪那岐尊乃
宣久月夜見尊者可以治滄海原潮之八百重也如斯事
依志給尓因豆月夜見尊即青海原袁治食須時龍馬尓
乘給豆四方乃国中之河ゝ溪ゝ尓至迄不殘睨巡給支
其時千曲川尓到給豆川上袁指天登給尓此溪川依清
水成而求水上而登給支中略故乃喜哉止詔天東方乎御
覽而宣久朝日直刺国暮日照国也止宣天神霧谷續
松山麓金井原乃下津岩根尓宮柱太敷立高天原尓千

木高知豆鎮坐支是後大己貴命以廣矛天八重雲袁押
分豆天地乎翔行豆天下乎睨巡給豆東国之五月蠅
声如須邪神乎神拂尓拂乎賜而此處尓到坐而月夜見
尊乃鎮坐受神言乎畏美悦比慎美謹美毛奇奉伴奉豆
相殿尓鎮坐尓因豆大伴神社止奉号支下略ゝ見えたる
ハ大己貴神の東国を巡造り御在ー坐ける證是なり
此地ハ月夜見大神の鎮り御在し坐す所由ハ傳十四百
九十六丁十四百三十ハ注るが如く此大神ハ素戔嗚尊
と聞えさせー程ハ国巡り御在ー坐て御跡を此ハ留
めさせ御在ー坐けるを大己貴神も此ハ御在ー坐て

御父大神の御許ゟ御霊を留めさせ御在し坐ける条
りけり其月夜見尊ゟ奉伴ゟ因て大伴神社と称奉る
由あるハ大己貴神を始奉りて其御伴神等も此ゟ御
在し坐を以て大伴と号けられけむ事申すも更ゟ
りけり又和名抄郷名ゟ諏訪郡美和筑摩郡大井水内
郡大島於保之末中島奈加之末埴科郡磯部伊
曽信船山布奈世末大穴於保奈屋代也之呂佐久郡大
井ゟ見えたる美和ハ大物主神なり大井ハ松尾同
体あり大島中島ハ上古ゟ湖水あり一時の島跡なる
ゟ然らずハ彼胸形の中津島ゟ坐す市杵島姫命ハ大
己貴神の嫡后ゟ坐せバ其由縁なるゟも有べし磯部
ハ例の大己貴神ゟ御在し坐なり船山ハ大和風土記ゟ平
群郡船山神社大己貴尊也と有ゟ思合す可く屋
代ハ出雲風土記ゟ意宇郡屋代郷有ゟ由有げなる事
共なり其信濃国ゟ隣りて彼神名式ゟ謂ゆる山梨郡金

櫻神社所祭少彦名命大己貴命素戔嗚尊ゟ渡らせ給
へれバ此ハ二柱神相並御在し坐ける御時の故事ゟ
依べき事傳サ九百七十丁ゟ注るゟ如し然して今般の御
事ゟ思ーきハ神名式ゟ同郡神部神社ハ傳サ九三十三丁
ゟ引る三代実録ゟ美和神と有ハ正ーく此神社ゟ當
る可きゟ就て上田百樹説ゟ神部を美和部と訓でさ
由云り然れども地神本紀ゟ素戔嗚尊十一世孫田田
彦命此命磯城瑞籬朝御世賜神部直大神部直姓と有
れバ縦ゟ美和神なりむうるゟ加年倍て訓ても何て
ゟ異らハ有む名勝志ゟ今加茂村加茂明神と云ゟ祭

神別雷神あり相殿に春日明神を祀れり」と云り風土
記に都留郡賀茂山神社云々所祭別雷神也崇峻天皇
二年己酉四月加幣使と有て舊社なるが此に式外な
り又式に巨麻郡神部神社も有り又其山梨郡松尾神
社坐り石の神部神社を合せて山城国に賀茂松尾神
社御在し坐す等しきに必故有べし名勝志に小屋敷
村に在り祭神東は大山咋神若山咋神若年神大己貴
神素戔嗚神蛭児命凡て六座称松尾六所明神此邊を
松尾郷と云ふと云り但蛭児命は事代主命を誤れる
なる可し又同郡大井侯神社三代実録に貞観五年十

二月九日丁卯以甲斐国従五位下大井侯神列於官社
同七年三月廿六日授甲斐国従五位下大井侯神正五
位下と有り和名抄郷名に巨麻郡大井（於保井）有り名勝
志に窪八幡宮と云ふ云々本社南方有天神祠當社鎮
座以前所祀地主神也祭神也彦名命也云々大井侯の
地名は東南の方に在り此邊近往昔の社領なりと云
ふ」と云り其八幡宮と申す（此水下に駿河国郡名に富士郡大井於保く有り田有て）胸形神を祀れるを以て
なる可し其大井の称は上三十四丁に注る丹波国大
井神社山城国大井川の御事に（統て云ふが如く）由有て其神は松尾同
体に坐す思合せられ侍り又巨麻郡笠屋神社風土記

△古今集甲斐歌
鹽山指出磯の住
千鳥君が御世をば
八千代とぞ啼くなる
有三の地名は大古
の時は未開の浸り
て有けるが追次沈
て山は高く海は低く
成ーうぐも猶朝海
の名殘ありて皆が
うみ湖水ありけ
むと思ひるるに

の雄略天皇四年庚子十一月所祭事代主命也と有り
偖右の神部神社賀茂山神社を別雷神と傳へ柏尾神
社大井俣神社は大山咋神胸形中都大神の坐て其別
雷神大山咋神は共の事代主神の山を分け磐を劈て
水脈を通して国を作給へりし御名ある事上三十
一丁の
注せるが如し△此の合せて賀茂縣主季鷹が富士日記
の何れの御世の山を穿ち岩を切り水を下げしよ
の村里田畑とは成たりけむ其事を掌りし人を称へ
て蹴裂明神と祀りし社今巨麻郡の在とぞ其切落し
と流は富士川ある可しと云るは豈人力の能致す事
なるべきや決めて其神の御所為ある可くて云る思へた
れ又は代郡(伐久神社は其御所の因れるなるや考へ可き事なり又)中尾神社名勝志は中尾村の在り飛永明
神と称す祭神大己貴神々云ひ同郡桙衝神社風土記
は仁德天皇四年丙子四月始所祭天鈿女命也と云る
を名勝志は美和神社は二宮村の在て二宮と称す祭
神大己貴命也(中略此邊竹居村の北は鉾木と云ふ地名
有り又尾山村の南は槻木(ツキノキ)と云地名有れば桙衝神社
と云も由無は非ずと云り但右は其所在を失ひて
風土記は同郡三輪明神(云く)雄略天皇十二年九月始被祭
之と有て打混れたるあり但平国之廣矛は由れる神

名あ〜むかハ実ハ大己貴神と云も誣たりとハ云べきハ非ず 偖右の大井俣神社の事を名勝志ハ祭神三百七十石余神人社僧餘多有り社領二十二日和気朝臣暴範自豊前国宇佐宮勧請云〜と云り但頃観の頃ハ勅命ハも非ずして私ハ勧請れる社を直ハ官社と為て式文ハ加〜るも可くも非ず思ふハ彼古より八幡神と申来れる女神の大山咋神と共ハ御在し坐て大井俣神社と斎ハれさせ給へるを以て其因ハ宇佐神宮より右の三神をハ迎て合せ祀れりけむを年序を経るハ隨ひて其旧き傳説をハ亡へり者あるハ乃倍ハ有ハ神名式ハ山城国愛宕郡出雲井於神社大月次相嘗新嘗と有ハ思合せられ又ハ代郡巨麻郡共ハ各川合加波比と云郷名見えたり同郡鴨川合坐小社宅神社名神大月次相嘗新嘗と有ハ相通へるあるべ允て此ハ至れる者たり所見 波山城より開き御在し坐て次て此

又神名式ハ遠江国周知郡小国神社一宮記ハ

△又石未伊佐波と有ハ下たり十七丁但馬国石未郷の事ハ就て注るが如し石部と云ハ同じけれバ天日方奇日方命ハ縁有り大国美奴方ハ伊佐波乗甲斐又国山梨郡石乗乃家ハ云〜と有る石未ハ石邊あり可き事石件ハ云る事共ハ合せて暁る可し若て但馬国と由有ハやハ代郡佐久神社或間神社名神大坐を但馬国養父郡或間神社元多郡佐久神社有り又

△田中神社圭田云〜敏達天皇四年乙未六月所祭宇佐御霊也と見えたる部傳ハ六十ハ臣る如く御霊神の亦名ハ一て大国魂神ハ御力を合せて稼穡の事を始給へりし神ハ

大己貴命と有り此を縁と為て上件の説共ハ合ハ可き事ハ有ける其ハ磐田郡深海国玉神社ハ傳ハ六十五丁ハ注る如く大国魂神ハ坐し又田中神社ハ傳十五丁ハ引る稲荷神社記ハ文己貴命と有ハ次ハ豊雷命神社ハ風土記ハ豊雷神社圭田云〜仁徳天皇之三年乙亥四月所祭別雷皇大神也と有ハ彼大山咋神ハ渡〜せ給ふ御事申すも更なり又豊雷雷貴命神社ハ風土記ハ豊玉比咩神社圭田云〜雄略天皇十五年八月初行祭礼略と有を合せて思ふハ雷ハ例の別雷神の雷ハして国作ハ御功ハ因れる者あり然して此神ハ

玉作神ハ天ても海神あるハても坐ず傳二十五ハ注
ヲハ如く彼三女神を玉依姫命と申奉る上ハ豊の言
を冠ハ〜せて依ハ言を略きて称奉れるなり又生雷
命（神社）ハ天武天皇元年御紀ハ年授社所居名生雷神也と
有ハ同じく此も右の豊雷（別雷）と申すハ等しく同神を称
別なる なり（三輩下十六境ハ注るを以て準ずべき者あ）次ハ天御子神社の事ハ細書ハ云べし又
御祖神社ハ（山城国ハ賀茂）右の別雷神社賀茂御祖神社並坐るハ思
合す可し御子神社二座ハ事代主命下照姫命の二柱
ハや矢奈比賣神社ハ出雲風土記ハ神門郡朝山郷（八野）（与）
須佐能袁命御子八野若日女
玉著玉之邑日女命坐之尓時所造天下大神大穴持命

遠江国正六位上
鴨神従五位下と見
え同

將要給為而令造屋給故ニ八野と有れハ八野日女神
社の謂なり可くや此神の御事傳二十八ハ二百七十六ハ十七丁
ハ云り又須波若御子神社ハ建御名方神ハ坐り偖和
名抄郷名ハ豊国止鎌与尓と有ハ善造成せ給へる謂なる
可く又加茂村と云地名の有と甚其謂有り又佐野郡
阿波と神社ハ幸川阿波神と一ハて事代主神の本后
なり又三代実録ハ貞観十九年（九年十月廿日授）十月廿七日遠江国正
六位上伊古奈神従五位下と有ハ式内の何れの社と
と知られざれども事代主神又后神ハ坐す事次なる
伊豆国條ハ云る也見合せて知べし若て駿河国と二

国ゟ界ひて大井川の有ハ水上の信濃国より山を穿
ち水を落して此三国を造らせ給へり御事と見え
て甚て久縁あるよしき神代の故事ゟ思ひ出たり
けるゟ然して其大井川ゟ傍る蓁原郡ゟ大楠神社敬満
神社名神大有を風土記ゟ大楠神社所祭大己貴命也欽
明天皇三年加新祭略と見え敬満神社圭田神略垂仁天
皇二十六年所祭ゟ彦名命也と見えたるゟ故ハ本よ
りの御事ゟ有り右の国神社ハ続後紀ゟ兼和七
郡無位小国天神従五位下三代実録ゟ貞観二年正月
廿七日戊寅授遠江国正五位下ゟ国神従四位下同十
六年二月廿三日ゟ国神従四
位上と有り右ゟ天神と有りしハ以彦名命其ゟ御在

坐ゟ云名い井波国船井郡須知郷
有ゟ由有ゟハ非ゟ考ふ可し若て右の天御子神社
ハ傳廿六巻二百丁ゟ引る本朝文集ゟ彼丹塗矢の男
ゟ化て令生給へるを山本坐天神御子と申せれハ右
等の神等の由縁ゟて後ゟ祀ゟれ給へるゟ可し又
次ゟ矢奈比賣神社ゟハ神階の事有り続後紀ゟ兼
和七年六月て己朝戊辰奉授遠江国磐田郡无位矢奈
比賣天神従五位下と有ハ右の小国神と同時ゟ又
三代実録ゟ貞観二年正月廿七日戊寅授遠江国従五
位上矢奈比賣神正五位上と有り今見付驛の天神
ゟ云り備此より西ゟ遠江ゟ其御由縁ゟ神名を
く御在し坐を其ハ神名を見ても心得ゟく事ゟれ
ハ然のミい書さず今ハ大井川の
水脈を通し給ひし事を主と云り然して大井川ハ遠
江風土記ゟ蓁原郡大井川或大猪其河流也其瀬飛礫岩
裏車其勢往反略と有を清和天皇実録ゟ貞観七年十
二月廿一日授駿河国正六位上大井神従五位下

△和名抄ニ盧原郡大井郷ト有リ皇土部大井郷の郷名を思合すべし

又三輪神社ニ雷豊敗重日足姫天皇三年丙辰四月所祭大物主神也と有て

△有度郡池田神社風土記ニ所祭事代主神也と有り又

と在て社ハ駿河国ニ立せ給ハり此を以て古すり両国ニ亘れる川ある事を知る時ハ又其東方も此時ニ巡造らせ御在し坐ける御事も亦疑を容べらず傳ハ立せ御在し坐も久縁の所以とハ見えさせ給ハず

サル三十二丁ニ注る如く（式ニ）益頭郡神神社（を風土記ニ）今も三輪村と云

（式外ニて風土記ニ皇長神社治頼郡天皇三年庚戌所祭主依比咩也と有り例の安神ニ坐し）て有む又那閇神社風土記ニ那閇神社男大迩天皇三年己丑四月所祭事代主神也（ハ魚贄の謂ニ依れる社号ニ）と有り又焼津神社風土記ニ益頭神社瑞歯別天皇四年己酉所祭市杵島比咩命也と見え又安倍郡足坪神社ハ味耜高彦根神ニ御在し坐し（駿河草ニ云物ニ）神部神社ハ美史ニ止豆鰭大己貴神社と有り即想社の御事ニ有り本社ハ大己貴大神ニて坐す神部神社是ニ有り」と云り和名抄ニ當郡美和郷有ニ思合すべし淺間新宮ニ並御在し坐を（合せて）俗ニ（アさげんなみや）淺間宮と申せり又大歳御祖神社ハ傳サ六十七十ニ注せるニ如く大歳神の后神ニ坐と聞えたるを風土記ニ大歳御祖神社或雷神号ニ主依姫略と有ニ（ハ其相殿神のミを傳なるべし今）上三十丁ニ云る山城国賀茂別雷神社賀茂御祖神社ニ御事ニ合り其淺間宮の別社ニ奈吾屋（社と云る）と云り又廬原郡奥津神社と云舊社有り風土記ニ興津或息津或奥津或沖津驛云と見えたる是ニ有り其駿河草ニ奥

文風土記に駿河郡葦原料神社和銅元年戊申四月所祭思姫也と有り

津駅家の東奥津川の西邊に宗像社有り奥津島姫命の鎮坐を以て地名と同じく奥津と云り 而部習合家に宗像辨財天と云ひ女体宮と云り 按 又傳に有り

廿九百六十ハ 七丁 注るが如く江島社説に大己貴命共に久延彦命合力経営相模江島安芸嚴島駿河御嶽と有ハ次彦名命の御名を脱せるか又ハ誤れるか其脱たるかも誤れるかも無くい此時に造らせ給へりと見る可し 棟梁集に冨士神を大己貴命と云と受る所有べきかや此に就て思合せらるるといい出雲国意宇郡布自奈大穴持神社風土記云 布自布神社風土記云 同布自奈社と有る布自奈い冨士名の義に其駿河御嶽を作らせ給へる由を以て称奉れる者ある可し 元て名と云ハ傳廿三 二百七十六丁 廿九四十四丁百四十五十四百八十一丁 ハ注せる如く物を造れバ名有り其名を負て其功を標す謂ふ

（ふじ給ひて国の鎮と成給ふ　あり下十五百三ハ注すを考合す）

（神名式ハ）

（是ありるを以て）

穴持高大明神高御魂命と有る高い山嶽の謂ふる可く所思えなら又出雲風土記に島根郡布自枳美高山郡家正南七里二百一十歩高二百七十丈周一十里有烽又女岳山郡家正南二百卅歩と有て男岳女岳有て相對へるを其布自枳美と云も冨士を造らせ給へる君主

と御在し坐す謂ある可きか神名式に同郡布自伎美
神社風土記作布自伎美坐を或抄に山口郷布自枳美山今称
嵩山大明神大己貴命と注し又多氣神社をも其嵩山
大明神に合祀るとも云も大に由有る事共なり但傳廿六卷二百
六十三丁に注せるが如く風土記に山口郷郡家正南
四里二百九十八歩須佐能烏命御子都留支日子命詔
吾敷坐山口處在詔而故山口負給へり其布自伎美
山を体と成て山口とは云なり若て都留支日子命は
五十猛命の亦名と思しくて其所に注せるが如し然
る時は大己貴命と云説は誤なるに似たり然り乎
も山を造給ふ神も御力を合せ給ふ可き事田
を造らせ給へる神御歳神の御力を添給ふに等しう
りぬ可ければ右の二社の内一社は大己貴命一社は
五十猛命と心得て違はざる可し偖冨士神を大己貴
命と申すは其作らせ給へる由れる事なれて其山神
は大山祇神に坐し其主神は木花開耶姫命に坐す故

に渡間神社名神大冨知神社は偖神名式に伊豆国賀
別に立せ給へるを辨へよ
茂郡三島神社名神大月次新嘗此郡名の賀茂は摂津国島下
郡三島鴨神社と有る鴨と等しき事下二十六百に注る
が如くに此祭神は事代主神なれば渡らせ給へりけ
ら其祭神式文にては一座の趣なれども今現に五柱
にて渡らせ給へるは傳十一四十一丁に注せるが如く其
后三島溝樴姫命と其御祖大山祇神闇龗神二柱と宗像大
神とにて渡らせ給ふ可きが此国に大己貴神の御社
と思しきは那賀郡笠名神社は三輪神社と申さむが
如く伊志夫神社は和名抄に石史郷有り是なる可き

が今賀茂郡石部村に坐と聞くに今の唱への方正し
きめて姓氏録山城国神に石邇公大物主命子久斯比
別地祇
賀多命之後也と有る此神に坐
三輪ふる事決き者あり又国玉命神社伊豆志に君沢
郡小土肥村称大社出雲大社と同じく祭日十月十日
あり」と云り但神階帳に国玉姫明神と有り毗玉命
社に出雲神賀詞に倭大物主櫛甕玉命と見えたる是
あり又国玉命神社一本に国主に作れる其然る可
し其国主神と申す例に傳廿九十五に已に注り又神
階帳に賀茂郡従四位上大井明神正五位上国主明神

と申すも所見なり是大国主神及其和魂大物主神其
荒魂大国魂神共に此国に並御在し坐す證是あり此
に神代を去て遠き後の事なれど天武天皇十三年御
紀に冬十月己卯朔壬辰遠江人足大地震云々伊豫湯
泉没而不出土左国田苑五十餘万頃没為海云々是夕
有鳴聲如鼓聞于東方有人曰伊豆島西北二面自然増
益三百餘丈更為一島則如鼓音神造此島郷也と云事
の有を以ても神代の国造の基とりけむ御事を想
ふべき有り又日本後紀に天長九年五月庚戌云々伊
豆国言上三島神伊古奈比咩神二前預名神此神塞深

谷推高巌平造之地二十町許作神宮二院池三處神異之事不可勝計と見え又續後紀に承和七年九月癸酉朔癸巳伊豆国言賀茂郡有造作島大名上津島此島坐阿波神是三島大社本后也又坐物忌奈乃命即前社御子神也新作神宮四院石室二間屋二間闇室十三疊略下と有る此等の事を以て大己貴神の御事に申すも更なり其御子事代主神又其后神等御子等共に神代に国造巡り御在し坐ける御時に各其御力を合せ給ひて立給へり其御功の云へば不得実に云知ず甚も可畏く御在し坐けむ御事を有る思回らす可き者

ありける但伊豆国の事心得難し（鎌倉寛記）に伊豆別王子者景行天皇二十四子武押分命也伊豆国造記曰割駿河国伊豆乃崎号伊豆国云と見えたれば其以前の神代の事い駿河国の事に続けて一に見べき事云も更なれば其心して考に可し備上三十九丁に近江国蒲賀郡神田神社を伊豆大社と申し又伊豆大明神と申すい必此伊豆国の事なる可きに当国に於て更に思合す可き事なし其賀茂郡を大同類聚方に医徒国可年郡と有れば神田い賀茂郡の神田にて和泉国大鳥郡の式社に鴨田神社有り姓氏録に賀茂朝臣大神朝臣同祖大国主神之後也と見え又大島郡郷名に上神加無都美和と和名抄に出たる共と此に合せて思ふに若くい三島大社なりに此神の御在し坐ける御事有て上古に近江に移りせ御在し坐けるなどの御事有て右の神田神社の号い有るや備中国に於ての御事跡に右に注せる如く駿河御嶽と共に江島に作りせ給へる古傳にて明らかなるかな

神名式に高座郡寒川神社名神大御在

（坐て其ハ胸形神ハ御在（坐て由已ハ傳十五三百七十四丁ハ注るが如く同郡深見神社和名抄郷名ハ深見布加美と有り風土記ハ深見神社或作深水深海雄略天皇二十二年三月所祭隼雷神也と見え足上郡寒田神社有て豐後国大野郡西寒多神社坐ハ東の寒田神社ハ對へて此を西と云る為り土人云大野ハ大分を語ハる云て大分郡早田村ハ在て寒田ハ幡と云ハ也と云れば此の寒田神社も右の寒川神社と等しく所祭三女神ハて渡らせ給ハ可き御事申すも更なり又大住郡比多神社ハ傳十二三百五十四丁ハ注せるが如く天夷鳥命ハ御在（坐て相武国造の祖神なる事ハ本より為る物なり總風土記ハ此と多伊神社天万豊日天皇乙巳十月所祭大酒解ハ酒解神也と有ハ梅宮の例なり大山祇命木花開耶姫命なども相殿と為る者なる可し又阿夫利神社ハ傳十一丁ハ注せるが如く高靈神ハ渡らせ給へる為で也惣て思ふに大山祇神ハ神産靈神ハ右の伊豆国の伊古奈比咩命ハ名海咩姫命の御父母ハ渡らせ給へれば此国ハも寒川神の夫神と坐す大己貴神ハ更なり事代主神なども鎮座御社有べりなども風土記の傳ハ是ざるハ依て今考ハ可き使宜

無きい甚可情し事なりとす但伊豆国へ引付し見べき事云も更なり偖右の賓川神社賓田神社ふい其佑神ゑ共ふ大己貴神も並御在坐しもも知べし〳〵ず又其御子神等の御社も求めたし〳〵ふ決めて有ぬ可きなり又神名式ふ武蔵国荏原郡磐井神社風土記ふ磐井神社云と敏達天皇二年癸巳八月所祭大己貴命也社邊有磐井祈事土俗有妄願則御牛洗井水霊験水事正直則如清水近国奇之祈病者取之服之其功験如神土俗曰薬水ゑ見え又大井の地名も此近きふ有り又埼玉郡前玉神社二座い若くい其章魂奇魂神ゑ祀れるる可くや玉敷神社い阿波国美馬四郡佐太国主大国敷神社二座ゑ有る其い傳廿九

洗

文 同郡国造地祇神社名式社考ふ北野村ふ有り大己貴命ゑ云り

九丁一丁ふ注せるが如く大国魂神ふて渡〳〵せ給へるを式社考ふ騎西郡騎西宿久伊豆大明神也大己貴命ゑ有ふ合り又男衾郡出雲乃伊波比神社ゑ兼永本朱書入ふ大己貴命也ゑ見え播羅郡田中神社ゑ式社考ふ三箇尻郷宮嶋村天神宮大己貴命五世孫建甕別命ゑ云るい地神本紀ふ據て云るるが右の地名の如く ハ實ふ然る言なり又比企郡伊古乃速御玉比賣神社ハ伊古乃い右の伊豆国賀茂郡伊古奈比咩神ゑ同ト く速御玉〳〵字の如く御心の一速ゑ用るる一つし那賀郡麁玉命神社い右ふ引る伊豆国那賀郡麁玉命神社

尻

小同小きを以て思合すべし可き者なり（又和名抄郷名に久良郡大井於保井紀主郡大井有り又加茂と云地名足立郡にも埼玉郡にも在り又豊島郡に箕輪と云地名の有も三輪の義なるべし桙傳廿九巻百七十一丁に云ふを考に可し）安房上総（下総）常陸の国々の故事に安房風土記に平群郡達良郷磯幡八幡（云々）所祭宗像神社也舒明天皇二年庚寅行神事と有て此に和名抄郷名に達良（多々良）と有る是なるが傳十五（三百七十六丁三百九十三丁）に注るが如く陸奥国安積郡宇奈己呂和気神社（名神大）飯豊和気神社隠津島神社（又云）安積三社と云るを其宇奈己呂和気神社を八幡村の八幡と申し飯豊和気神社を阿多々羅の飯豊神と申し隠津島神社を内木

（蒜）○畔蒜郡に蒜嶋郷有ハ大神大物主神の由縁有へき事甲子に更なり

幡村の辨財天社是なりと云る中に石の阿多々羅に和名抄郡名に安達安多（知）と有る本の唱なるを思ふに此達良に移して阿多々羅の地名に出来れる者と見ゆ此は国造の御事に就ても甚所以有る御事共なり又郷名に安房郡大井於保井長狭郡賀茂なども有て甚謂有り又上総国郡名に長柄奈良加有り神名式に大和国葛上郡長柄神社鍬姓氏録大和国神別地祇に長柄首天乃八重事代主神之後也と有に思合す可し又武射郡加毛郷有り右四十八丁に引る神（天武天皇元年御紀）も神名式に年狭社所居生雷神（也と賀茂）有る生雷神に別雷神と同神なれて渡る也給へるに由

有り神名式に下総国千葉郡寒川神社御在り坐す事
い右に注せる相模国なる同じき事申すも更なり
風土記に相馬郡琴泊神社生田四十五束六字田所祭
味耜高彦根神也齋明天皇二年丙辰二月奉生田加神
禮祭事と有て次に太井荘の事出たるに和名抄に謂田
る大井神郷是なり又猿島郡高根郷有い高彦根の略名
る可くして田有り此邊に高岑と云べき山などの無
き所なるゆゑ心を寄す可し又甚千葉郡に三枝郷有
り△右の三国共に大己貴神の御事跡を思しきに見え
ざる物なり其后神御子神等の御事如此詳なる此い

△又式に出雲国出雲郡
印波神社神[illegible]
に和名抄郡名に印波
[illegible]郷[illegible]下総国印波
有[illegible]中有けるに共
なり[illegible]に右に在取郡
徒田郡神社三国三十二
東三[illegible]所祭別雷神
世郡明天皇二年己丑三
月始春三回行[illegible]神礼祭
事等[illegible]有に右の琴泊
神社と同神なり偽右の
三枝[illegible]に永る

其思を成す可き者なむ有ける其三枝と云い神名
式に大和国葛上郡率川坐大神御子神社三座と有い傳廿六巻九十一丁
廿九巻八十一丁に注せるが如く大物主神大国魂神
と其御子事代主神とを祀れる趣なるを神祇令三枝
祭義解に謂率川社祭也以三枝華鎮酒罇祭故曰三三
枝祭也と見えたる是なり又大三輪神三社頭座沢常
に春日三枝神社殿鞜五十鈴殿命也と有る是其別
社なり此に據て見る時い此の三枝郷なも必其神を
上古より祀祭りし御社なむ有べきなり式に漏
給へる故に其便宜無きなり神名式に常陸国真壁郡大国
玉神社此御事に就て其い已に傳廿九巻八十七丁に注
せるを猶云ひじ今大国玉村と云に御在り坐て所祭
二座ありて東を男体宮と申して即大国玉神なり西
を女体宮と申して活玉依媛命を祀ると云る活玉い

衍ふ〳〵て玉依姫命ハ即上三十一丁ニ謂ゆる賀茂御祖神
と一ふて大己貴神の后神ニ御在ー坐ら〻此ニ其荒
魂神と共ニ並御在ー坐奇めり又新治郡稲田神社名神
大ハ其大己貴命の御祖ゑの同郡鴨大神御子神主神
社ハ事代主命の御子鴨主命ニ坐ー和名抄ニ茨城郡
生国郷有ハ彼生国足国神の御名の傳ハれるなり又
神名式ニ多珂郡佐波波地祇神社ハ清和天皇実録ニ
謂ゆる三枝祇神の御事ニて渡〻せ給ひ那賀郡阿波
山上神社と此二社を合せて大和国添上郡率川坐大
神御子神社三座率川阿波神社と並立せるあも稱合

へり又其三代実録ニ貞観十六年五月十一日丁酉授
常陸国正六位上飛護之神国津神従五位下と有る飛
護之神ハ味耜高彦根神ニ御在ー坐べく国津神ハ例
の大己貴神ニ渡〻せ給ふ可き御事更ニ論無く又仁
和三年三月廿八日丙子授常陸国正六位上郷造神従
五位下と有る郷ハ久佐と訓べくして傳廿九四十四丁ニ
注せるニ如く国作大己貴命ニ御在ー坐べし右三社
共ニ式外ニハ御在ー坐ざる甚事無き神ニ多
渡〻せ給へりけ与又事の因ニ思寄ればくに神名式
ニ茨城郡羽梨山神社太同類聚方十六ニ波那之楽常

常郡大井郷有り荒て神名式ニ大井神社所見ゆり佑

陸国茨城郡拝師里羽梨山之神社傳不流方と有れが
薬師神ハ御在坐ざるり波那之ハ花鎮の略ハ
非るり廿八社鎮座と云物か在寒戸郷岩間村南葉山
麓羽梨山土人傳云昔此山也櫻樹為林毎春花盛開之
時連亭如雲因名曰花白山後世謂之花志山訛也亦改
為葉梨俗沿謬可祭神木花開耶姫命と云る花白山の説
ハ花鎮山(ハナシヅヤマ)を取違へたる俗傳なる可し當郡城上郷有
を思合す可し神祇令季春鎮華祭義解ハ謂大神狭
井二祭也在春華飛散之時疫神分散而行病焉其鎮遏
必有此祭故曰鎮華祭と有る是なり然りて祭神を木

花開耶姫命と云も謂有る事なりて傳廿九二百五十二下ハ注
せるが如く其鎮華祭ハ櫻を被用る定なれがなり
三代実録ハ貞観十二年八月廿八日授常陸国従
五位下羽梨神従五位上仁和元年九月七日授常
陸国従五位上羽梨神正五位下と有て此ハ山を略
して唯羽梨神とのみと有り然る時ハ花鎮神と申すハ
愈以て近き者なり倭大同類聚方十八巻ハ出志麻薬
島連之家二傳流方元者ハ常陸国鹿島郡鹿島の宮造中臣鹿
ハ次ハ名命の神方ハ元者ハ名命之方也と有て此也
在り坐て国造給ひし御時の傳ハる事ハ彼二柱神相並び御
(ハ)ハ遥ハ以前ハ御事なり神名式ハ同郡大洗磯前神社名神大
薬師菩薩神社名神大那賀郡酒烈磯前神社名神大
有へ彼文徳天皇御時なりの御事なれハ此ハ神代の

公共賀郡阿波山上神社多珂郡佐波い地祇神社等の説ハ下七百二十九丁か云べし

御事か偽て決決
一云べきか非ず又傳廿九三十四丁大物主神又八十九丁大国
五神の下か已か注せるか神名式か上野国山田郡賀
茂神社美和神社御在一坐て其賀茂神社を頭注か大
山咋神美和神社大己貴命と書せり但此ハ豐城命の
大和より勧請れるかゆへ有べきけれども其のまゝ
ゝず神代の由緒思ひる事なむ有ける其佐佐郡大国
神社の御事ハ同式か大和国城上郡穴師坐大神荒魂
神社五座鍬と有か今の備又傳十五三石八十四丁か注せる
當国神名帳か群馬西郡従四位下胸形明神甘楽郡従
五位上億津宮明神群馬郡正五位上息津宮明神群馬

西郡従三位四億津宮明神又緑野郡従四位下水沼明
神群馬西郡正五位上水沼明神なゞ見えて此か也三
女神の御在一坐す御事和り此ハ又群馬西郡従五
位上大井明神群馬西郡正五位上大井明神と有か即
大山咋神か御在一坐て松尾同体なる事已か注るか
如く又邑楽郡従五位上長柄明神ハ事代主神か坐事
右の上総国の下か注るか如く又勢多郡従五位上白
川明神此ハ式か陸奥国白河郡都し古和気神社名神大
名頭注か味耜高彦根命と有か思合て可く又山田郡
従四位上磯部明神ハ天日方奇日方命か坐て事代主

一本に利止止と有れど此は別神なりと聞ゆる

神の長子なり新田郡正五位上阿波明神は事代主神の本宮に坐す事右に伊豆国の下に云へり群馬西郡従三位新渠明神は其宮溝樹姫命に御在し坐ざるる確氷郡従四位上若宮玉明神は天孫降臨章に下照姫命と亦名高姫亦名稚国玉と有に合り此に就て思ふに神名式なる那波郡倭文神社は因幡国高草郡にも和名抄郷名に同社の有る頭注に下照姫命と有に准ら云可きなり又群馬西郡従三位諏訪若御子明神は上に云る遠江国磐田郡なるに等しく御在し坐て即建御名方神の御事なり皆ゞ国作の御事に御功坐ける神等に渡

郡従三位大奈知明神と有に即大己貴命なり彦名命に御在し坐て古の御事に此と別の度なり備前国に常神天皇四十八年御紀に所見たるが如く上野国に常神天皇四十八年御紀に所見たるが如く諸山に坐し夢の瑞を得て豊城命東に治させ給へれば其時に右の美和神社なるべし記らせ給ふ可し又履仲天皇四年御紀に車持君弟紫に行て其弟紫神の御崇を得奉りたれば其事に因て胸形神を祭れば本国に祀れるも有べしなりけれども押並て皆神代の故事に因て其神社に傳に云る者なるべし所見たりける又傳に六巻百二十に云物に所祭大己貴命赤城神社名神大社に上野国志に云物に所祭大己貴命の赤城の韓社日本に何に跡を垂けし」と有る韓社は韓神社なる事を聞ゆ然る時は大己貴命に御在坐べき御事中にも更なり但今赤城三所明神と申せれば国韓神を合せて三神なるべし然る時は大物主神も御在し坐なるべけり縦後紀に天応元年六月甲

申奉授上野国従五位下三代実録ニ見ヘ
九年六月廿日　授上野国従五位上赤城神従五位下
同十一年十一月廿五日　授上野国正五位下赤
城神正五位上同十六年三月十四日　授上野国正五位
上赤城神従四位下元慶四年五月廿五日　戊寅授上野
国勲七等従四位上と見えたり但
し説ニ姓氏録河内国皇別應来津公上毛野朝臣同祖
豐城入彦命之後也三世孫赤麻呂依家地名号賜
津君者と有る此赤麻呂を祀るなるやと云へど其ハ
河内国ニて土着たる人と見ゆれば此ハ由無し本
国神名帳ニハ正一位　佐神名式ニ下(津)野国都賀郡大
赤城(頭注ニ三輪大明神也と注せり又其国の)大明神と見ゆ
神社式社考と云物ニ在猶社村大己貴神と云ひ大前
神社同考ニ在大前村大己貴持神と云ひ村檜神社同
考ニ小野寺村ニ在と云て祭神名書さず一説ニ出雲
風土記ニ神門郡朝山郷郡家東南五里五十六歩神魂

命御子眞玉著玉之邑日女命坐之尓時所造天下大神
大穴持命娶給而毎朝通坐故云朝山と有ニ據て此女
神ニ坐ニやと云ふハ然と有るも右ニ神魂命御子て
ハ有れども実ハ玉依姫命の亦名なる由傳十五四百五十
廿六二百七十七丁ニ云へり又河内郡二荒山神社名神天ハ一宮
記ニ味耜高彦根命と書頭注ニハ事代主命と有も
同神の御上なるが違へるニハ非ず式社考ニ河内郡
宇都宮ニ在り大己貴命ニハ皇事代主命健御名方命
を合せ祭る即奥州道の宇都宮大明神なり此社舊日
光山の内白峯山ニ在り豐城入彦命勧請なり神護景

雲年中今の地へ遷座あり摂社下宮に味耜高彦根神を祀る」とあり性靈集便蒙に大己貴與健御名方為本宮新宮と云るに其日光山の御事なり故思ふに日光の本社宇都宮の遥社なる可きか又一説に日光の本宮を與宇都宮同体味耜高彦根命新宮を大己貴命瀧尾を田心姫命と傳へて是謂ゆる日光三社なり外に寂光を下照姫命と申せり皆国作り神等に御在坐に深き所以有る御事と所見なり又武に芳賀郡大前神社武社彦に大前村に在り大己貴命を云ひ那須郡健武山神社に素戔嗚尊に渡らせ給ふ由傳廿八三十下

に注るが如く又美和神社の御事に傳廿九三十に云ひ又寒川郡胸形神社の傳廿五三十に云ひ注に九

めき此胸形神社の御事に就て右に云る相模国高座郡寒川神社名神大下總国千葉郡寒川神社の田緒を殿(殿)る可し同じ八幡神に御在坐に謂ゆる男体山女体山の二荒山神社名神大の二荒に謂ゆる男体蒙に補陀落山本名二荒山祭大己貴與建御名方に右に引る便神故名一説春秋二時有大風雨故名二荒後改白光者異音相近也亦名補陀落者俗語相近也云る荒神の説も大風雨の説も共に不なる非事なり又後に其二荒を日光と書るに実に右の如く異音の相近きに因れる事なるを後世又其日光の字に就て神怪の説を吐くに妖傳の妖言より起りて天下を愚誑す者なり

ふ(て)云ふ迄に又神名式に陸奥国白河郡都に古和氣神社名神大頭注に味耜高彦根命を有る即上三十に注せ

八溝嶽神社白河故事考に筑金神也今所祭二座山王大己貴命日本事代主命と云
り其筑金神と云ハ續後紀に承和三年正月辛丑朔乙亥詔壽元陸奥国白河郡従五位下勲十等八溝嶽金神封戸二烟以旌国司之禱令修祓金共数階常祐助違唐之災也と有る是なり
又

るが如く別當神の御事なり同郡飯豐比賣神社御在
し坐し由有る御事なるを摂津国東生郡比賣許曾神
社名神大月次相嘗新嘗の杜記に雄宮神社祭神二座別宮命飯
豐命下照媛別名也勸請奥州白河郡仙谷郷無と有い其社い
臨時祭式に亦号に下照比賣と有る社なれども故有て
右の二社の神を祀へるなるべし此を以て陸奥国に
止事無き由緒有を暁るに足れり又同郡石都と古和
気神社白河故事考に在石川郡須釜村俗曰い惣祭
神高彦根命神主所傳記に此神崇を作る事を人に
教給ひし事鹽竈明神の鹽を焼く事を教給ひしに同

に同村大安寺文書に此事の趣見ゆ大安寺永和三年文
書陸奥国炭釜云と記有り又宮城郡伊豆佐賣神社風
土記に伊豆佐賣神社所祭溝樴比咩也略と有る即事
代主神の后神にて渡らせ給ひ又類史に舒明天皇四
年七月陸奥国鹽釜神社奉勅使略と有り式の志波彦
神社名神大と い別名に降り和漢三才圖會に當社の御事
を祭神一座味耜高彦根命相傳當社明神治焼鹽と有
り猶此事い別に云べし又式に加美郡飯豐神社和名
抄郷名に宇多郡飯豐有り又信夫郡東屋国神社磐城
郡大国魂神社と有り大己貴神に思合す可く牡鹿郡

大島神社桃生郡計仙麻大島神社名神大ハ謂ゆる胸形
中津島神なる可き事傳十五三百八十八丁ハ注るが如く又
行方郡益多嶺神社ハ弔往年詣奉りて神主田代專信
と云ふ聞れるハ此地を大田村と云て祭神ハ大国主
神なり今甲子宮と云と云り會津郡磐梯国神社と有
る磐梯ハ其御功を以て称へ国神ハ例の名なる可し又
小田郡黄金山神社ハ傳十五三百八十九丁ハ引る舊説ハ開
闢之始三輪明神ハ四橋築之練黄金造此巨嶋と云り
然して其祀神ハ宗像神ハ御在坐事実ハ所以有り
又右国五十七丁ハ注るが如く安積郡宇奈己呂和気神社

名神大ハ八幡神なりて即玉依姫命の御事なり飯豊和気
神社ハ白下ハ九丁ハ云る如く下照姫命ハ田有ハ隠津島神社
ハ本より宗像神ハ御在坐せば此三社を合せて御
母子二神なりけり備右の磐梯国神社を大己貴神ハ
天山ハ御坐坐べく思定せる由ハ凡て
ハ即大己貴命ハ彦名命ニ柱ハ渡らせ給へる由ハ
先麻の事ハ傳廿九巻百六十七丁ハ引る駿河風土記
ハ富士郡樺原豊麻神社二座所祭大己貴命共ニ彦名是
命也て右ハ此二柱神を称ハ豊麻神と申奉る證是
なり又同巻四百九十八丁ハ引る伊賀風土記ハ阿閉
郡拓植此山有神奉申敢国所謂少彦名之命也云々国
神奉愛敬之義也と有る国神ハ大己貴命の御事なる
ハ右ハ便宜所以て二神の姑く其地ハ留
せ給へる御事を知べし然るハ其郡名の事を古風土記ハ
天照大神自天上下天之阿波云ふ故名阿波謂阿益者
音訛也て有て栗を以て号けたるを以て拓植と其拓

名神大ハ八幡神なりて即玉依姫命の御事なり飯豊和気
神社ハ白下ハ九丁ハ云る如く下照姫命ハ田有ハ隠津島神社
ハ本より宗像神ハ御在坐せば此三社を合せて御
母子二神なりけり備右の磐梯国神社を大己貴神ハ
天山ハ御坐坐べく思定せる由ハ凡て
ハ即大己貴命ハ彦名命ニ柱ハ渡らせ給へる由ハ
先麻の事ハ傳廿九巻百六十七丁ハ引る駿河風土記
ハ富士郡樺原豊麻神社二座所祭大己貴命共ニ彦名是
命也て右ハ此二柱神を称ハ豊麻神と申奉る證是
なり又同巻四百九十八丁ハ引る伊賀風土記ハ阿閉
郡拓植此山有神奉申敢国所謂少彦名之命也云々国
神奉愛敬之義也と有る国神ハ大己貴命の御事なる
ハ右ハ便宜所以て二神の姑く其地ハ留
せ給へる御事を知べし然るハ其郡名の事を古風土記ハ
天照大神自天上下天之阿波云ふ故名阿波謂阿益者
音訛也て有て栗を以て号けたるを以て拓植と其拓

△是事せるを阿波郡都と古記東神社名神大と同神と国内八幡と
申すハ其往祀なる

△又和名抄ハ国郡鍬山郷有る事上件
井数国鍬山神社の御事を同合せる
行り

△後守此郡之時

の自然に生ずるなり（あるい拓生あるべきか）
れば有に依て然云ふ（未だ分明ならず）必其植たりし者に誰
か有む右の二柱神に御在（坐）す御事著きを其拓を
何の為に植たりや云ふ其八栗の属に丹蛮養の為
なりや此を以見る時に此地に其方を弘め傳させ給
へるなどに依て蛮養国神社を祭奉れる者なる可
し
出羽国に和銅五年に陸奥越後二国を割て初めて
置れたるなり然れば各其本国に本著てあむ其説を
得べからざりけり先和名抄郡名に置賜（於伊太き）て有や其
国作の本なるるもむ出雲風土記に意宇郡毋理郷（中略）所
造天下大神大穴持命越八国平賜而還坐時（中略）但八雲
立出雲国有敢静（坐）国青垣山廻賜而玉珍置賜而守詔
故云文理（神龍三年改字毋理）と有る此に国廻の以前の事なる

ふて此に列ぬ可きに非ずと雖も右の越八国の竟て
云い今の出羽の地なりければ此事（政）に国て自然に置
雲の名も此に遺れる者と所見なりなるい大同類聚
方廿九巻に元良郡毛蘭出羽国郡山長岡之家之方と
有に最上（毛加美）村山（年良夜末）と有て置賜と相接ける郡共
なるに其縁さの天喜本に胸返乃薬坂上大忌寸新田
麻呂奏方元者道反神之方と有い其村山郡に傳なる
を傳奏されて縁紀に宝亀元年九月乙亥正四位
下坂上大忌寸新田麻呂為陸奥鎮守将軍と有る此時
の事なりけ依此道反神と申すい岐神の御事に

る由傳十二百十二丁十二四十七丁十三八十七丁に已に注るが如し然して廿九六十丁に注るが如く天孫降臨章る大己貴神の国避の時の御言に吾以此方平治功天孫若用此方治国者必當平安と有に當りて乃薦岐神於こ神曰是當代我而奉從也略と有て一に其神体の廣矛を以て傳へ一に廣矛の御魂の岐神にて傳りたる者あり此に岐神を薦めて奉給ふ御言にて其平国の御時に伴ひ奉らせ給へる御事著明し然る時に此村山郡に其道反神の神薬の傳りたる事其大己貴神と共に国巡り御在に坐ける御時に非ずして何れ

の時とかい云定む可き此に妙なる傳説ありけるに其に傳廿九百七十一丁に引る最上郡なる古老の口傳に古出雲国に阿古夜と申す姫君有り陸奥国に藤と云男ありむ有て聞く其こと吾妹と定む可きありけれとて来賜ひしが道賜村山の邊に川有り歩渡り為給ふて裾を高く上げれば其脛白く水に移りるを里人の見て笑ければ恥川と云名遺れり若て室澤と云ふ山内にて終に其藤と夫婦と成て或時下江と云所に出ゆくに大水満め有て雖と群山相重りて下に流るゝ事能はず此に於て人夫を促がし其山を切流しし

△和名抄郷名最上郡大倉村山郡大倉有之地神本紀ニ共命を奉国葛上郡雲御社を有を式ニ大倉比賣神社一名稲荷社と見えたるにて共所縁有る事を明し也可き者あり

が水勢甚早くして悲く流落て唯最上の内ハ長泥泥澤鰻澤と云所ハのみ水殘めて太抵ハ平地と成れり其地今最上郡と云ふ是あり其水流ハ謂ゆる最上川と云る是あり其山を流し入たる土砂も亦国と成る今の莊内の地是なり」（ハ）と云る其阿古夜て申せる女神ハ出雲風土記神門郡多伎郷ハ謂ゆる所造天下大神之御子阿陀加夜努志多伎吉比賣命の阿多加夜を訛れる者ハ〻て即下照姫命の御事なり△其藤ハ云男の事詳ならず此神を稚国玉神と申せば其国神と共ハ国々造らせ給へる御妹妹の如く申辭め好のし

者なめり此説の如くハ最上村山置賜ハ三郡と古ハ大なる湖水ハて在しなりけり其般を拔て水を通給ひしも著く最上川筋船方と云ふ莊内の清川と云迄三里許の間ハ川の左右ハ盤石壁立て陸ハ通ハ可き路無く唯舟の往来有のミ僅ハ水流の上ハ細く青天を望ひ外ハ四方ハ眺むる所なき無りける彼丹波の大井川信濃の越後川を切拔せ給ひて上ハ平坦の地出来り下ハ海を埋めて国土の廣まれるハ同じ事なりければ右ハ謂ゆる陸奥国ハ別雷命飯豐命並御在ハ坐て御事を思合す可き者あり（佐飯豐と申すハ字の如き意なり）

国を作り御在し坐て飯田を天下の豐饒の物為させ給へる謂なる可し也神本紀の事代主神の妹高照光姫大神命と有り此神なる坐侍国葛上郡御歳神社と申す義に非ず其御歳神社の内にも従祀て為て御在し坐す由なる事傳サ六巻百三十二丁に注せるが如し偖如此御歳神と共に御在し坐し亦名を稚国玉神と申して御父の大国魂神に對い奉り給へる御功坐べき所事申さる更なり偖白河郡に今も飯豊村有り又會津郡に飯豊山と云有て陸奥一国の大山なり然て後出羽に跨りて四時雪絶ず山上に社有て飯豊權現と申す土俗伊比傳山と云り是亦置賜郡に係れる山なるを考合すに可し偖和名抄に最上郡に郡可山方の郷有い郡可陸地にして其大湖に對へる名山方に其大水に浸らざる山方なる謂なる可くや何れも為て最上川一方を水口にして此三郡い湖水なりし狀い偖右の群山を切崩し流し去る今も著明く所見たり

土砂の固を成れる今の莊内の地是なりと云るい和名抄に謂ゆる飽海河久田川多加出羽三郡の地是なり其飽海い開海（アキウミ）の義なりて今陸を成れる平地い古へい海なりし時の称の遺れるなりけり今も其最上大川の水底より數十圍の埋木を掘出る事常なりて奇々々々ぶりを以て其川上より大山を崩し入給へりし事現に見て知る、事なり此時の大己貴神い何處に御在し坐るや今考るに傳十五三百九十三丁に注るが如く田川郡伊氏波神社社傳に所答玉依姫命と云るを稚素戔嗚尊大己貴命も御在し坐て凡て三神にて渡らせ給へる狀なり今羽黒山と云る石麓

に国見山と云ふ小山有り国の眞の域と云べき地にして實に三郡を一目に眺望し處なり其最上より山を流して海を埋め国を作らせ御在し坐けるを斯る地なりこそと思浮らるる状なりけれ同郡由豆佐賣神社に右に注る陸奥国の伊豆佐賣神社と一にして所祭溝樹姫命に御在し坐て事代主神の后神なり又式外にて荒倉神社所祭事代主神なりと土人此を傳へ續き加茂の地有る事奇しき迄合るを又式外飽海郡に大井神社有り城輪神社有り大三輪と同じく飛鳥神社に例の如く事代主神なる渡し給ひける

備又傳十四四十三丁に注せるが如く神名式に謂ゆる飽海郡大物忌神社名神大月山神社名神大に保食神と素戔嗚尊とに御在て坐せるに其伊氏波神社に御在し坐す玉依姫命にして其保食神を齋りて御在し坐す神に渡らせ給へれば大己貴神以下の御事迹將此莊内の地に必多在ぬ可き御事なりけり備其平鹿郡鹽湯彦神社波宇志別神社に大己貴少彦名二神と思しき由有て傳十九百七十三丁に注るを和名抄に大井郷有り河邊郡川合郷有に事代主神に縁有り又二郡共に邑知郷有に神大市比賣命に由有る地名なる

今の世に謂へる荒くい添
神の名は伊弉諾神を
古事記に謂ふ富理神
と有り天孫降臨章
第六に言ふ添山に云
富理能那麻と有り
添と一なり此に彼
国神大物主神の御在
り坐に依て里名を成れる
又川名とも成れる
なり大和山にも国神
に依て名有の聖
出来其上に添上
添下と云ふ郡名
と別れたるも等し
くや有らむ然して
右の廣峯山城国
の祇園社の本社が
りと云れば此も廣
峯より徙奉りて
云へ祇園の園を一に
為て云説なるべし

由傳廿三 三石一斗 を注るが如し又神名式に山本郡添川
神社 大 云 三鞍畠の高岳山に在り播磨国廣峯神を
徙奉りて牛頭天王と云へり然る時は傳廿三 三石二十
六廿七 七十九丁 に注るが如く饒磨郡白国神社にて所
祭素戔嗚大神に渡らせ給へれば愈以て由有り齊明天皇
四年御紀阿倍臣の蝦夷を伐れし所に鰐田浮代二郡
の蝦夷の乞降へる時に鰐田恩荷進而誓曰云し若為
軍以備弓矢鬻田浦神知無と有を此副川神社の事
に古人の云るい然と有べし和名抄に秋田郡添川郷
郡有りと註す為べし備右の恩荷とい別にして其秋田
郡の北に當りて謂ゆる能湖を隔てく遠男鹿島と
云有り飽海郡の北端に女鹿浦と云有り對へる名な
る一可くして副川神社より其遠き所なり其島に奇
異なる石窟有て窟中恐も玉を敷るが如く實に神境
なるが故に稿武廟とて可畏き神社有を土人漢武の時に

国立公文書館
National Archives of Japan